

【ソフトウェア使用許諾書】

下記の条項は株式会社アーク情報システム(以下「ARK」といいます)が、「BOOT 革命/USB」(コンピューター・ソフトウェア、マニュアル、その他関連資料を含み、以下「本ソフトウェア」といいます)に適用いたします。

1. 使用許諾

- ①お客様は本ソフトウェアを、1台のコンピューターに限り使用できます。
- ②お客様は、本ソフトウェアのバックアップを目的に、ただ一つの複製を作成することができます(バンドル版は除きます)。

2. 使用許諾期間

- ①本契約は、お客様が本契約の内容に同意して本ソフトウェアの使用を開始したときより発効し、お客様が本ソフトウェアの使用を止められたとき、または本ソフトウェアのアップグレード品の契約が結ばれるまでを有効とします。
- ②お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合、ARKは本契約を一時的に終了させていただくことがあります。

3. 保証および責任の内容

- ①CDおよびマニュアルに物理的な欠陥がある場合は、購入後90日以内は無償で交換いたします(バンドル版は除きます)。ただし、お客様は本ソフトウェアの購入日を証明できる写しを添付しなければなりません。それ以外の場合は実費をご負担いただきます。
- ②ARKは、本ソフトウェアの仕様およびサービスの内容を予告なしに変更することがあります。なお、本ソフトウェアのサポートサービス終了に関しては、Webページにてご案内をいたします。
- ③ARKは、サポートを終了した製品に関しては、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。
- ④サポートサービスは、ARKの規定に沿って電話、メール、FAXで行いますが、サポートサービスがお客様の目的に適合することを保証するものではありません。
- ⑤ARKは、ユーザー登録がなされない場合や、登録変更の届け出がなされない場合、またはその内容に不備がある場合において、ARKからお客様へ連絡の不達において生じる不利益および損害については、一切の責任を負うものではありません。なお、メール等でご案内する本ソフトウェアに関する情報やサポートサービスの内容に関しては、Webサイトでも同内容のご案内をしておりますので、こちらをもってお客様へのご連絡とさせていただきます。
- ⑥ARKおよびMicrosoft(バンドル版においては本ソフトウェアの提供先も含みます)は、いかなる場合にもお客様が本ソフトウェアを使用した結果に関して一切の責任を負うものではありません。
- ⑦本契約のもとで、本ソフトウェアの品質および性能に関して発生する問題は、お客様の費用負担をもって処理するものとします。
- ⑧本契約のもとで、ARKがお客様に負担する責任の総額は、本ソフトウェアの購入金額を超えないものとします。ただし、バンドル版においてはこの条項は適用されず、ARKは金銭的な責任を負うものではありません。
- ⑨本ソフトウェアのサービス(主にサポートサービスとなりますがこれに限りません)は日本国内に限定されるものとします。また、日本語で対応することとします。

4. 禁止事項

- ①本ソフトウェアを逆コンパイルまたは逆アセンブル、またはその他の方法でソースコードを解析すること。
- ②本ソフトウェアを譲渡、転貸、再販売、輸出すること。
- ③ARKへの文書による事前の承諾なしに、本ソフトウェアの二次著作物を創作、譲渡、販売、転貸すること。
- ④ARKへの事前の承諾なしに、本ソフトウェアを引用し書籍を刊行すること。
- ⑤ネットワークにおいて、本ソフトウェアを私的使用を超える範囲で利用すること。

5. その他

- ①お客様およびARKは、本契約に関連して発生した紛争については、東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所とするものとします。

著作権

- ・BOOT 革命/USBの著作権は株式会社アーク情報システムが有しています。
- ・BOOT 革命は株式会社アーク情報システムの登録商標です。

目 次

第1章 BOOT 革命 /USB の使用開始にあたって	・ BOOT 革命 /USB をご利用いただけるシステム環境 1-2 ・ BOOT 革命 /USB のインストール 1-4 ・ コンピューター環境などに関する注意・制限事項 1-5 ・ 各操作時の注意・制限事項 1-7 ・ USB デバイスから起動時の注意・制限事項 1-11
第2章 起動デバイスの作成	・ BOOT 革命 /USB のコピー方式について 2-2 ・ システムドライブを丸ごとコピー 2-3 ・ ファイルリストの作成 2-6 ・ ファイルを選択してコピー（ファイルリストを使用する） 2-9 ・ ファイルを選択してコピー（ファイルリストを使用しない） 2-12 ・ エクスターナルインストール（Bssic 版は非対応） 2-15
第3章 USB デバイスから Windows を起動	・ USB デバイスから Windows を起動 3-2 ・ 「どこでも起動」について 3-4 ・ ドライバデータベースの作成 3-5 ・ 環境修復ツール 3-7 ・ USB デバイスから内蔵ハードディスクに 復元（コピー）（Bssic 版、Standard 版は非対応） 3-9 ・ USB デバイスから起動できない場合の確認事項 3-11
第4章 便利ツール	・ USB 起動コードの書き込み・復元 4-2 ・ 起動用ファイルリストの作成（再編集） 4-3 ・ USB デバイスのアップデート 4-5 ・ ドライブ情報の取得 4-6 ・ コンピューター情報の取得 4-7 ・ パーティションの削除と アクティブパーティションの設定 4-8
第5章 参考資料	・ ディスクの先頭に「未割り当て」領域を作成してコピー 5-2 ・ USB デバイスから起動した Windows7 に サービスパックを適用 5-5 ・ ディスクの初期化と パーティションの作成（Windows 7/Vista） 5-7 ・ ディスクの初期化と パーティションの作成（Windows XP） 5-9 ・ USB メモリーのフォーマット 5-12

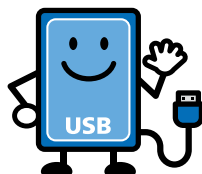
付録

・用語の解説	付 -2
・(株)アーク情報システム お客様情報保護方針	付 -6
・ユーザーサポートのご利用にあたって	付 -8
・ユーザーサポート申込書	付 -9

第 1 章

BOOT 革命 /USB の使用開始にあたって

(動作環境・インストール・注意事項 / 制限事項)



ここでは、BOOT 革命 /USB の動作環境、インストール方法、BOOT 革命 /USB をご利用いただくにあたってあらかじめお読みいただきたい注意事項や制限事項について説明しています。

BOOT 革命 /USB をご利用いただけるシステム環境

BOOT 革命 /USB をご利用いただくためには、下に示すコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

コンピューターシステム環境

オペレーティングシステム (OS) (いずれも日本語版)	Windows 7 32bit 版 /64bit 版 (SP0 ~ SP1) Windows Vista 32bit 版 (SP2 以降) Windows XP 32bit 版 (SP3 以降) ※ Windows Vista/XP の 64bit 版には対応していません。 ※ サーバー系の OS には対応していません。 ※ アドミニストレータ権限 (管理者権限) が必要です。
コンピューター	上記のオペレーティングシステムが稼働するコンピューター (PC/AT 互換機のみ) ※ Macintosh (Mac) には対応していません。
メモリー	Windows 7 64bit 版: 2GB 以上 Windows 7 32bit 版 / Vista 32bit 版: 512MB 以上 (1GB 以上推奨) Windows XP 32bit 版: 512MB 以上 ※ システムドライブを丸ごとコピーする場合は、システムドライブの使用容量 1 GB に対して 1 MB のメモリーが必要です。使用容量が大きい環境では、メモリーが少ないとコピーできない場合があります。
CD/DVD ドライブ	CD-ROM が読み込めるドライブ
内蔵ハードディスク	200MB 以上の空き容量 (本製品のインストール用として) ※ システムドライブを丸ごとコピーする場合、一時ファイル作成のため、上記のインストール容量とは別に 500MB 以上の空き容量が必要。
コピー先 USB デバイス	USB ハードディスク (USB2.0 以上) USB メモリー (USB2.0 以上) ※ USB メモリーは以下の容量が必要。 Windows 7 64bit 版: 32GB 以上 (ファイル選択コピー時: 6GB 以上) Windows 7 32bit 版: 16GB 以上 (ファイル選択コピー時: 4GB 以上) Windows Vista 32bit 版: 16GB 以上 (ファイル選択コピー時: 6GB 以上) Windows XP 32bit 版: 4GB 以上 (ファイル選択コピー時: 3GB 以上) ※ USB メモリーは高速タイプを推奨。 ※ 上記 USB メモリーの容量は、Windows のみがインストールされた環境で使用することを想定した容量です。アプリケーションがインストールされている場合、その使用状況によっては上記容量以上の USB メモリーが必要となる場合があります。
対応ファイルシステム	FAT32、NTFS (FAT16 には対応していません) ※ ダイナミックディスクの環境では使用できません。 ※ GPT ディスクには対応していません。
その他	インターネット接続環境 Windows のセットアップ CD (DVD) ※ ドライバのダウンロードやエクスターナルインストールで使います。この機能を使用しない場合は不要。



- BOOT 革命 /USB は、Symantec 社の「Norton GoBack」とは共存できません。



製品 CD からの起動について

BOOT 革命 /USB の製品 CD は、USB デバイスから起動するための起動コードが書き込まれた、起動 CD（ブータブル CD）となっています。



起動デバイスの優先順位について

通常のコンピュータは、電源を入れるとハードディスクにインストールされた OS が起動するようになっています。しかし、OS を起動することができるデバイスはハードディスクだけではなく、CD や USB デバイスからも起動は可能です。

最近のコンピュータであれば、ほとんどの機種で CD や USB デバイスの OS も起動することができますが、初期状態はハードディスクから起動する設定になっていることが多いため、そのままでは起動できないことがあります。

CD や USB デバイスから起動するためには、起動時にファンクションキーを押してメニューを呼び出しデバイスの選択をすることや、BIOS と呼ばれる設定画面で設定を変更することが必要です。

多くの機種は、起動時のメーカーロゴが表示されている間に、「F12: Boot Menu」、「F2: 起動メニュー」、「Press<F2>BIOS Setup」というような文字が表示されますので、指定されたキーを押すことで起動メニューや BIOS に入ることができます。ここで起動するデバイスを選択することで、CD や USB デバイスから起動ができるようになります。

起動するデバイスの変更方法はメーカーや機種によって様々であるため、その具体的な方法は弊社ではお答えすることはできません。コンピュータ付属のマニュアルやヘルプを参照するか、ハードウェアメーカーにお問い合わせください。

《起動デバイスの設定例》

● 起動メニューがある機種

DELL Vostro 220s

- ① メーカーロゴが表示されている間に「F12」キーを押す。
- ② 表示されるリストの中で起動するデバイスを選択する。

東芝 DynaBook SS RX2/T8K N

- ① メーカーロゴが表示されている間に「F12」キーを押す。
- ② 画面下にアイコンが表示されるので、起動するデバイスのアイコンを選択する。

富士通 FMV LIFEBOOK A6290

- ① メーカーロゴが表示されている間に「Enter」キーを押す。
- ② 表示されたメニューの中で「起動メニュー」を選択する。
- ③ 起動デバイスの中で選択する。

● BIOS で設定する機種

NEC VALUESTAR PC-VN550VG6B

- ① メーカーロゴが表示されている間に「F2」キーを押す。
- ② 「BOOT」メニューの中で「1st Boot Device」を起動するデバイスに設定する。

SONY VAIO VGN-Z73FB

- ① メーカーロゴが表示されている間に「F2」キーを押す。
- ② 「BOOT」メニューの中で、「Boot Priority」を「Internal Optical Disc Drive」が一番上になるように設定する。

BOOT 革命 /USB のインストール

BOOT 革命 /USB、BOOT 革命 /USB Memory の旧バージョンがインストールされている場合は、アンインストールしてから本製品のインストールをはじめてください。

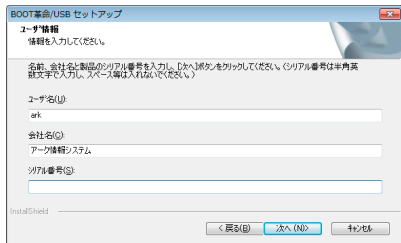
1 インストール開始

「インストール開始」をクリックします。



2 シリアル番号の入力

シリアル番号を入力します。



- シリアル番号は、半角英字の大文字と半角数字で入力してください。
- (例) ABCD-E12-FGH345JK67
- 受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

3 再起動

インストール後はコンピューターを再起動します。

アンインストールは、Windows の「コントロール パネル」を開き、「プログラムのアンインストール」、または「プログラムの追加と削除」から行ってください。



ユーザー登録画面の表示

Windows のスタートメニューで「BOOT 革命 /USB」→「ユーザー登録」を選択するとユーザー登録画面が表示されます。

「登録」ボタンをクリックすると弊社 Web サイトのユーザー登録ページが開きます。



Ark ランチャーについて

インストール後、デスクトップに「Ark ランチャー」のアイコンが作成されます。Ark ランチャーからは BOOT 革命 /USB のメイン画面や各種ツールを起動することができます。



コンピューター環境などに関する注意・制限事項

OS や他のソフトウェアに関連して

ユーザー権限について

BOOT 革命 /USB を実行できるユーザーは「管理者権限」をもったユーザーとなります。制限付ユーザー権限では実行できません。

安全に利用いただくために

- ・ 操作完了や再起動の選択メッセージが表示されたときに、ハードディスクのアクセスランプが点滅しているような場合は、点滅が収まるまで待ってから操作を行ってください。
- ・ お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止やアンインストール、周辺機器の取り外しなどを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・ 起動してからコピー、インストールが終了するまでは、USB デバイスを含め、周辺機器の取り付け・取り外しは行わないでください。
- ・ Symantec 社の「Norton GoBack」がインストールされている環境に、BOOT 革命 /USB をインストールしないでください。BOOT 革命 /USB をインストールする前に、「Norton GoBack」をアンインストールしてください。

コンピューターのリカバリーや再インストールを行う場合の注意事項

「USB 起動コードの書き込み・復元」ツール (4-2 ページ) で内蔵ハードディスクに USB 起動コードを書き込んでいる場合は、コンピューターのリカバリーや再インストール前に、必ず「USB 起動コードの書き込み・復元」ツールで起動コードを復元してから行うようにしてください。復元せずにリカバリーや再インストール

を行うと、USB デバイスから起動するためのセレクト画面が残ったままになってしまうことがあります。

USB デバイスの消去 (フォーマット) について

BOOT 革命 /USB は、コピー先の USB デバイスに対してパーティションの消去やフォーマットを行います。コピー先 USB デバイスを消去 (フォーマット) するかどうかのメッセージで「はい」を選択すると、中にあるデータはすべて消去され、元の状態に戻すことはできません。

操作を行う前にドライブ、パーティションを確認し、必要なデータはあらかじめ CD/DVD-R や別の USB ハードディスク (USB メモリー) などにバックアップをとってください。

USB デバイスが複数接続されている場合は、コピー先を間違えないように、コピー先として使用する USB デバイス以外は、接続を外すか、電源を切るようにしてください。

対応ファイルシステムについて

- ・ 対応ファイルシステムは NTFS と FAT32 です。FAT16 では使用できません。
- ・ ダイナミックディスクの環境では使用できません。ベーシックディスクの環境で使用してください。
- ・ GPT ディスクには対応していません。

FD ドライブが増える現象について

BOOT 革命 /USB の製品 CD をドライブに挿入したままコンピューターを起動すると、FD ドライブが増える現象が発生します。これは、BOOT 革命 /USB の製品 CD がブータブル CD となっているために発生するもので、実際には存在しないデバイスになります。表示させないようにするには、ドライブから製品 CD

を抜いてコンピューターを起動してください。

その他の注意・制限事項

BOOT 革命 /USB は、BootCamp やその他の OS エミュレーション下での動作を特に制限していませんが、お使いの環境によっては正常に動作しない場合があります。

革命シリーズとの共存について

- ・ Windows XP で BOOT 革命 /USB がインストールされている環境に HD 革命 /BackUp Ver.5 または Ver.6 をインストールした場合、HD 革命 /BackUp をインストールした後に BOOT 革命 /USB の製品 CD を開き、「Support」フォルダーに収録されている、HD 革命 /BackUp アップデータを実行してください（弊社 Web サイトからもダウンロードできます）。
- ・ BOOT 革命 /DISK Mirror Ver.1、HD 革命 /DISK Mirror Ver.2～Ver.3 との同時使用はできません。
- ・ HD 革命 /WinProtector での保護中は、BOOT 革命 /USB でコピーができません。
- ・ BOOT 革命 /USB で内蔵ハードディスクに起動コードを書き込んでいる場合、HD 革命 /BackUp の「HDZ マネージャー」で「イメージファイルブートの設定／中止（HDZ ファイル起動の設定／中止）」、「ブートリカバリーの設定／中止」を選択しないでください。
- ・ BOOT 革命 /USB Memory の起動コードを内蔵ハードディスクに書き込んでいる、または HD 革命 /BackUp の「HDZ マネージャー」で「イメージファイルブートの設定（HDZ ファイル起動の設定）」、「ブートリカバリーの設定」を行っている場合は、BOOT 革命 /USB の起動コードをハードディスクに書き込むことはできません。

別のコンピューターでの起動 （どこでも起動）について

システムドライブのコピー、またはエクスタナルインストールを行ったコンピューターとは別のコンピューターに USB デバイスを接続して起動する場合は、次のような注意・制限事項があります。

- ・ コピー（インストール）を行う前に、ドライブデータベースファイルを作成してください（3-5 ページ）。
- ・ 起動するコンピューターでライセンスの再認証が必要です。ライセンス認証については、マイクロソフトまたはコンピューターのメーカーにお問い合わせください。コンピューターメーカーによっては、プリインストールされている Windows を他のコンピューターで使用する権利がない場合がありますので、ライセンス規約に違反することがないように十分に注意してください。
- ・ 別のコンピューターで起動した際に、そのコンピューター用の、LAN、サウンド、ビデオドライバなどのインストールが必要となる場合があります。
- ・ 必ずしも別のコンピューターでコピーした OS が正常に起動できるとは限りません。すべての環境における動作保証はできませんのでご了承ください。



USB メモリーとは

フラッシュメモリーを使用したデータ記録用の補助記憶装置です。BOOT 革命 /USB では、USB コネクタと記憶媒体のフラッシュメモリーが一体になっている一般的な形状の USB メモリーの使用を想定していますが、カードリーダーを使用することで SD メディアカードやコンパクトフラッシュ、メモリースティックなどのメディアも使用することができます。

各操作時の注意・制限事項

一般的な注意・制限

各操作に共通する注意

- ・USB 2.0、3.0 の拡張カードに接続されている USB デバイスにもコピー、インストールできますが、拡張カードに接続された状態では USB デバイスからの起動ができないことがあります。
- ・USB ハブ (HUB) を使用する場合、USB デバイスをハブに接続してからコピー、インストールを行うようにしてください。ただし、USB ハブに接続された状態では USB デバイスから起動できないことがあります。
- ・USB デバイスを高速化するようなユーティリティ (バッファローの TurboUSB など) を使用している場合は、USB デバイスからの起動ができない場合があります。高速化ユーティリティをアンインストールしてからご使用ください。

コピー先が USB ハードディスクの場合の注意

- ・OS の制限により、サイズが 2TB 以上のパーティションからの OS の起動はできません。コピー元のシステムドライブ、エクスターナルインストールを行うパーティションのサイズは 2TB 以下にしてください。
- ・USB ハードディスクがセキュリティソフトやロックツール (アイ・オー・データの iSPIS やバッファローの Secure Lock+Guard など) で保護されている場合、USB ハードディスクがコピー先として表示されません。そのような場合は保護の解除・停止を行ってからコピーを行ってください。

コピー先が USB メモリーの場合の注意

- ・USB メモリーにパスワードによる保護機能や暗号化機能などのセキュリティ機能が搭載

されていると、USB メモリーから起動ができない場合があります。

- ・SDHC などのメモリーカードをカードリーダーに入れて使用する場合は、マルチカードリーダーでは起動できません。シングルカードリーダーで使用してください。

起動用デバイスの作成における注意・制限

ハードウェア環境に関する注意

- ・マルチブート環境でもシステムドライブのコピーはできますが、パーティションの構成によっては正常に起動できない場合があります。
- ・SATA や RAID の拡張カードに接続された内蔵ハードディスクでもコピーはできますが、このようなカードが接続されている状態では、コンベンショナルメモリーが不足し USB デバイスからの起動ができない場合があります。
- ・コピー先が USB ハードディスクの場合、USB ハードディスク全体のサイズがシステムドライブより小さいときは、ドライブサイズを縮小してコピーを行います。この場合、システムドライブの使用領域より大きなサイズの USB ハードディスクを用意してください。

コピーするシステムドライブ



USBハードディスクのサイズ



コピーするドライブと USB ハードディスクの例

- ・コピー先が USB メモリーの場合、システムドライブの使用容量がコピー先となる USB メモリーのサイズより大きいときはコピーができません。コピーを行うには、システムド

ライブの使用容量より大きいサイズの USB メモリーを用意してください。

コピーするシステムドライブ



USBメモリーのサイズ



コピーするドライブと USB メモリーの例

システムドライブを丸ごとコピー時の注意事項

- ・ Windows 7 でシステムドライブのコピーを行う場合は、「システムで予約済み」領域も同時にコピーします。ただし、USB メモリーがコピー先の場合は、システムドライブのみコピーされます。
- ・ コピー中の変更を記録する一時ファイル作成のために、コピー元ハードディスクに 500MB の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合、システムドライブのコピーを行うことはできません。
- ・ システムドライブのコピーを行うためには、コピー元システムドライブの使用領域 1GB に対して 1MB のメモリーが必要です。メモリーが不足している場合、コピーを行うことはできません。
- ・ コピーを開始した時点のドライブの内容がコピーされます。コピー中に作成したファイル・フォルダーや変更されたファイル・フォルダーはコピーされません。
- ・ コピー中に一時ファイルの容量が限界値に達するとコピーを継続することができなくなります。コピー中は、システムに大きな負荷をかけるようなアプリケーションを動作させないでください。
- ・ システムドライブのコピー中にエラーが発生した場合、「セクタの読み込みに失敗しました」や「書き込みエラーが発生しました」などのエラーメッセージが表示されます。表示

されたメッセージの中で「はい」をクリックすると、エラーを無視してコピーを続行することができます。この場合は、エラーが発生した個所のデータはコピーされない（コピー先 USB ハードディスクのデータが正しいかどうかは保証されない）ので、USB ハードディスクから Windows を起動したときに動作に支障が出る場合があります。

システムドライブのサイズをコピー先に合わせる場合の制限事項

- ・ コピー先が USB メモリーの場合、サイズをコピー先に合わせるオプションは選択できません。自動的に USB メモリーの最大サイズまで拡大されます。
- ・ コピー先のサイズがシステムドライブのサイズ以下の場合、サイズをコピー先に合わせるオプションは選択できません。
- ・ コピー元のファイルシステムが FAT32 の場合は、クラスタサイズの限界値を超えて拡大すると、コピー先のパーティションが正しく認識できなくなります。この場合は、コピー元のファイルシステムを NTFS にするか、コピー元と同じサイズにしてコピーしてください。なお、拡大できる上限値は以下の表のサイズとなります。

FAT32 の場合のサイズと上限値

パーティションのサイズ	標準クラスタサイズ	拡大できる上限値
32MB ~ 64MB	512byte	64GB
64MB ~ 128MB	1kB	128GB
128MB ~ 256MB	2kB	256GB
256MB ~ 8GB	4kB	512GB
8GB ~ 16GB	8kB	1TB
16GB ~ 32GB	16kB	2TB

※ 1KB (キロバイト) = 1024byte (バイト)

「NTFS の暗号化を行う」オプションについて

「コピー設定の確認」画面 (2-4 ページ) で「NTFS の暗号化を行う」のオプションを選択すると、USB デバイスへコピーしたシステム

ドライブに対して、NTFS の暗号化を行います。暗号化されたファイル・フォルダーは、システムドライブのコピーを行ったユーザー以外ではアクセスできません。

このオプションは、Windows XP Home Edition、Windows Vista Home Basic/Home Premium、Windows 7 Starter/Home Basic/Home Premium では使用できません。

また、以下のファイル・フォルダーは、NTFS の暗号化が行われません。

- ・ Windows の起動に必要なファイル、フォルダー
- ・ [Program Files] フォルダー
- ・ Windows のシステムフォルダー
- ・ 現在ログオンしている（システムドライブのコピーを行った）ユーザー以外の「マイドキュメント」
- ・ ファイル・フォルダーの属性において、「内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する」が選択不可になっているもの

※ファイル・フォルダーの属性は、エクスプローラなどでファイル・フォルダーを右クリックして「プロパティ」を表示し、「詳細設定」をクリックすることで確認できます。

ファイルリスト作成時の注意

- ・ コピー元の内蔵ハードディスクで NTFS の暗号化を行っているファイルは、BOOT 革命 /USB で USB デバイスにコピーしても使用することができません。
- ・ USB メモリーがコピー先の場合、ファイルリストの作成時に実行するアプリケーションによっては必要なファイルサイズが大きくなり、USB メモリーに収まらなくなってしまうことがあります。この場合は、より大きなサイズの USB メモリーを使用するか、「起動用ファイルリスト作成ツール」で再編集を行ってください。

ファイルを選択してコピー時の注意事項

- ・ コピー元のシステムドライブで NTFS の暗号化を行っているファイルは、コピー先の USB デバイスで使用できません。
- ・ ファイルを選択してコピーした場合は、システムドライブのファイルシステムが FAT32 であっても、USB デバイスのファイルシステムは NTFS となります。

ファイルコピー中のエラーメッセージについて

「起動用ファイルリスト作成ツール」で作成したファイルリストに記録されているファイルが、コピー時に存在しない（削除された）場合は次のようなメッセージが表示されます。ここで、コピーできなかったファイルに対しての操作を選択します。通常は「無視」を選択してコピーを続行してください。



エクスターナルインストールのライセンスについて

- ・ エクスターナルインストールを行う Windows は、Microsoft 社のライセンスに従って使用してください。
- ・ 他社製ソフトウェアをご利用になる場合は、複数の Windows にインストールして使用できないライセンスとなっている場合があります。許可されたライセンス数を超えないようにしてください。
- ・ インストール後にライセンス認証が必要です。ライセンス認証については、マイクロソフトまたはコンピューターのメーカーにお問い合わせください。
- ・ コンピューターに付属しているリカバリーディスクは使用できません。

エクスターナルインストールの注意・制限事項

- ・内蔵ハードディスクの Windows が起動していない状態で、エクスターナルインストールを行うことはできません。
- ・現在インストールされている Windows とは異なるバージョン、または異なるエディションを USB デバイスにインストールする場合、USB デバイスから起動できないことがあります（例：内蔵ハードディスクに Windows 7 がインストールされている環境で、USB デバイスに Windows XP をインストールする場合など）。
- ・USB ハードディスクにエクスターナルインストールを行う場合、空の USB ハードディスクにはインストールできません。自動的にパーティションを作成する機能はありませんので、インストール前にパーティションを作成しておいてください。
- ・コピー先として選択できるのは、「プライマリ パーティション（基本パーティション）」です。論理ドライブにはインストールできません。
- ・インストール先として選択したパーティションはフォーマットされ、データが消去されます。このとき、ファイルシステムは NTFS となります。

エクスターナルインストールに必要なサイズについて

エクスターナルインストールで USB デバイスに Windows XP をインストールするには 4GB 以上、Windows 7/Vista 32bit 版をインストールするには 16GB 以上、Windows 7 64bit 版をインストールするには 32GB 以上の容量が必要です。

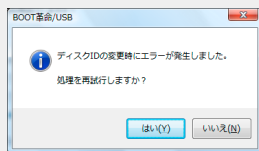
コピー先が USB ハードディスクの場合は、上記容量のパーティションを用意してください。また、コピー先が USB デバイスの場合は、上記容量以上のサイズの USB メモリーを用意してください。



ディスク ID 変更時のエラーについて

BOOT 革命 /USB ではシステムドライブのコピーを行った後、USB デバイスのディスク ID を書き換えます。しかし、お使いの環境によっては、コピー終了時にこの書き換えができないことがあります。

書き換えができない場合、次のコンピュータ起動時にこの書き換えを行います。このときに次のメッセージが表示される場合があります。



書き換えを行わない場合、USB ハードディスクから正しく起動しませんので、「はい」をクリックして処理を行ってください。

USB デバイスから起動時の注意・制限事項

USB 起動コードについて

システムドライブのコピー終了後、USB デバイスから Windows を起動するためには、USB 起動用の起動コード（以下、「起動コード」といいます）が必要です。

この起動コードがコンピューターの起動時に読み込まれると、USB デバイスから起動するかどうかのセレクト画面（選択メッセージ）が表示され、何かキーを押すことで USB デバイスからの起動が行われます。起動コードは以下のいずれかの方法によって読み込みを行います。

①「製品 CD」から起動する

BOOT 革命 /USB の製品 CD には起動コードが書き込まれているので、製品 CD でコンピューターを起動します。

②内蔵ハードディスクに起動コードを書き込む

「USB 起動コードの書き込み・復元」ツール（4-2 ページ）で内蔵ハードディスクに起動コードを書き込み、コンピューターを起動します。

※ハードディスクのマスターブートレコード（MBR）を書き換えるようなソフトウェア（マルチブートユーティリティなど）を使用している場合は、ハードディスクに起動コードを書き込まないようにしてください。そのようなソフトウェアを使用している場合は「製品 CD」を使用してください。

※ハードディスクに書き込んだ起動コードを元に戻すには、「USB 起動コードの書き込み・復元」ツール（4-2 ページ）で復元を行ってください。

※コンピューターのリカバリーや再インストールは、必ず「USB 起動コードの書き込み・復元ツール」で起動コードを復元してから行うようにしてください。

USB デバイスからの起動が可能な BIOS

USB デバイスからの起動が可能な BIOS の場合、上記の方法で起動コードを読み込まなくても、起動デバイスの順番を変更することで USB デバイスから起動できます。

BIOS の設定で、USB デバイスの起動順番を一番先頭にしてください。この場合は「製品 CD」や内蔵ハードディスクへの起動コードの書き込みは必要ありません。

※ BIOS の設定方法や USB ハードディスクから起動可能かどうかは、お使いのコンピューターにより異なりますので、コンピューターの説明書などをご覧ください。

USB デバイスとコンピューターの相性問題

- ・ Windows 起動後に（デスクトップが表示されてから）USB ハードディスクを接続しないと認識できないような環境の場合は、USB デバイスから起動することができません。
- ・ USB デバイスを接続した状態でコンピューターを起動すると、起動途中で止まってしまうような環境では、USB デバイスから起動することはできません。

USB デバイスからの起動時の注意・制限

- ・ USB デバイスから起動したときに、起動している USB デバイスの取り外しは行わないでください。
- ・ システムドライブのコピーを行った USB ポートと、起動する USB ポートが異なると、USB デバイスからの起動ができないことがあります。USB デバイスから起動する場合は、システムドライブのコピーを行った

USB ポートに接続して使用してください。

- ・ USB デバイスから起動を行うと、USB デバイスにコピーしたシステムドライブが C ドライブとなり、元のシステムドライブのドライブ文字は別のドライブ文字に割り当てられています。ハードディスクへの操作を行う場合は、ドライブ文字をよく確認してから行うようにしてください。
- ・ 内蔵ハードディスクを取り外すと USB デバイスから起動できない環境があります。この場合は、内蔵ハードディスクは接続したまま USB デバイスから起動するようにしてください。
- ・ お使いのコンピューターによっては、USB デバイスから起動したときに、休止状態、スタンバイ、サスペンドなどの省電力機能が正しく動作しない場合があります。正しく動作しない場合、USB デバイスからの起動時は設定を解除または無効にしてください。
- ・ USB デバイスにコピーまたはインストールした OS のアップグレード（例：Windows XP から Windows 7 へのアップグレード）を行うと、USB デバイスの OS が起動できなくなりますので、アップグレードは行わないようにしてください。
- ・ USB デバイスで起動中は、USB デバイスからシステムファイルが読み込まれるために、内蔵ハードディスクから起動するより動作が遅くなります。特に、USB メモリーはハードディスクに比べて速度がかなり遅くなります。
- ・ USB デバイスで起動した場合、アプリケーションによっては、すべての機能が使用できない、または正しく動作しないことがあります。

「ページングファイル」について

お使いのコンピューターによっては、USB デバイスから Windows を起動したときに「ペ

ージング ファイル」が設定できずに、「仮想メモリが限界です」というメッセージが表示されることがあります。

「OK」をクリックしてログオンすれば、USB デバイスから起動している Windows の操作は可能です。ただし、「ページング ファイル」を使用していないので、パフォーマンスが低下します。

また、ログオン画面（「ようこそ」と表示されている画面）で「個人設定を読み込んでいます」と表示されたままになる場合は、「Ctrl」+「Alt」+「Delete (Del)」キーを押すことでログオンできます。

この現象は内蔵ハードディスクが取り外されている場合や、内蔵ハードディスクに「FAT」または「NTFS」のパーティションが存在しない場合に発生することがありますので、「FAT」または「NTFS」のパーティションが存在する内蔵ハードディスクを接続することで現象が改善される場合があります。

内蔵ハードディスクへの復元（コピー） についての注意・制限事項

- ・ 内蔵ハードディスクへの復元時は、復元（コピー）先となるハードディスクのデータは消去されます。操作を行う前にドライブ、パーティションを確認し、必要なデータはあらかじめ CD/DVD-R や別の USB ハードディスク（USB メモリー）などにバックアップをとってください。
- ・ コンピューターによっては、復元（コピー）を行うと、リカバリーデータが保存されているパーティションまで消去されてしまいますので、復元（コピー）には注意してください。ハードディスクリカバリーを行うコンピューターをご使用の場合は、あらかじめリカバリーディスクを用意していただくことをおすすめします。
- ・ 復元（コピー）元となる USB デバイスが

USB メモリーの場合は、システムドライブのみ復元（コピー）されるため、元の環境で先頭に「システムで予約済み」領域が存在していたとしても、コピー後はシステムドライブが先頭のパーティションとなります。

・USB デバイスから復元（コピー）を行うと、BOOT 革命 /USB で設定した壁紙に変更されます。元のデスクトップで使用していた壁紙には自動的に戻りません。



未割り当て領域へのコピーについて

コピー先がハードディスクの場合、ディスクの先頭にシステムドライブをコピーできる十分なサイズの「未割り当て」領域があると、コピー先デバイス全体を消去せずに「未割り当て」領域にコピーすることができます。この方法は、USB デバイスから起動して復元（コピー）を行う場合でも可能です。

コピー先の先頭にリカバリー領域が存在する場合などは、その後のシステムドライブが「未割り当て」領域であったとしても、ハードディスク全体を消去してコピーが行われます。

なお、コピー元とコピー先でハードディスクのヘッド数が異なる場合は、「未割り当て」領域にコピーを行うか、ディスク全体を消去してからコピーを行うかを選択するメッセージが表示されます。

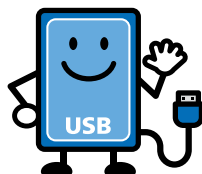
下の例では、ディスク 0 のシステムドライブ（Cドライブ）より大きな「未割り当て」領域がディスク 1 の先頭にあるので、Hドライブを削除せずにコピーすることができます。

「未割り当て」領域を作成してコピーする方法は、5-2 ページをご覧ください。

ディスク 0		
システムで ベシック 153.38 GB オンライン	(C:) 46.74 GB NTFS 正常 (ブート、ページ ファイル)	(D:) 104.55 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
ディスク 1		
ベシック 232.88 GB オンライン	46.84 GB 未割り当て	(H:) 184.95 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)

第 2 章

起動デバイスの作成



この章では、BOOT 革命 /USB を使用してシステム関連ファイルを USB デバイスにコピーし、起動デバイスとする手順について説明しています。

BOOT 革命 /USB のコピー方式について

BOOT 革命 /USB では、USB デバイスから Windows を起動するために、システム関連のファイルを USB デバイスにコピーします。コピー方式はいくつか用意されていますが、それぞれに長所、短所が存在します。

ここでは、それぞれのコピー方式について説明します。

丸ごとコピー

現在起動しているシステムドライブの内容を、丸ごと USB デバイスにコピーする方式です。この方式では、インストールされているアプリケーションもそのままコピーされるため、USB ハードディスクから起動しても、内蔵ハードディスクと同じ環境で Windows の操作を行うことができます。

ただし、システムドライブをすべてコピーするため、書き込み速度が USB ハードディスクに比べて遅い USB メモリーがコピー先の場合は、システムドライブの使用領域が大きいくほど作成に時間がかかることになります。

ファイルリストを使用してコピー

Windows の起動に必要なファイルリストを元に、USB デバイスにファイル単位でコピーする方式です。

ファイルリストを使用することでコピーするファイルが少なくなり、丸ごとコピーする方式よりも短時間で作成が可能で、また、容量の小さな USB メモリーにもコピーできるようになります。

この方式で Windows の起動のみを行う USB デバイスを作成しておくことで、Windows が起動しなくなった場合に、必要なデータのみを取り出すような用途として使用できます。

ただし、すべてのファイルがコピーされていませんので、インストールされているアプリケーションが動作しない場合があります。

また、ファイルリストを使用せずに必要な

ファイルを選択除外してコピーすることもできますが、ファイル単位でのコピーを行っているので、ファイル数によっては丸ごとコピーするよりも時間がかかってしまうことがあります。

エクスターナルインストール

※ Basic 版では使用できません。

市販されている Windows 7/Vista/XP のインストールディスクから USB デバイスに一度ファイルをコピーし、そこから Windows のセットアップ（インストール）を行う方式です。この方式は、Windows の新規インストールを行っていますので、USB デバイスはクリーンな環境となり、内蔵の Windows 環境とは別の Windows 環境を構築することができます。

ただし、エクスターナルインストールを行うには、市販の Windows インストールディスクが必要なため、お持ちでない場合はこの機能は使用できません。また、コンピューター付属のリカバリーディスクではエクスターナルインストールを行うことはできません。



ファイルリストとは

ファイルリストとは、Windows の起動時に読み込まれたファイルを分析し、必要な最低限のファイルをリストアップしたものです。ファイルリストを使用することで、USB デバイスにコピーするファイルを少なくすることができます。

システムドライブを丸ごとコピー

BOOT 革命 /USB を使用し、システムドライブを USB デバイスにコピーする手順を説明します。

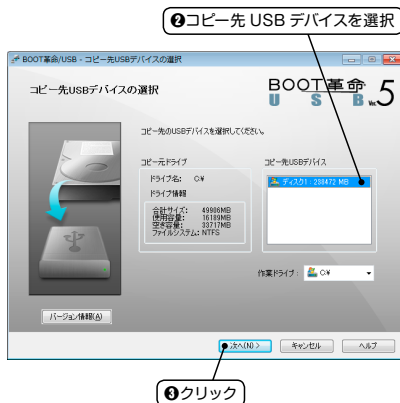
1 BOOT 革命 /USB の起動

Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「システムドライブを丸ごとコピー」を選択します。



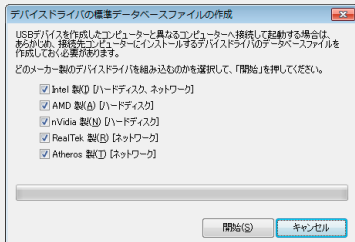
2 コピー先 USB デバイスの選択

コピーする USB デバイスを選択します。



別のコンピュータで USB デバイスを使用する

システムドライブのコピーを行ったコンピュータとは別のコンピュータで使用する場合は、コピーを始める前にハードウェアのデータベースファイルを作成する必要があります。3-5 ページの操作でデータベースファイルを作成した後にシステムドライブのコピーを行ってください。

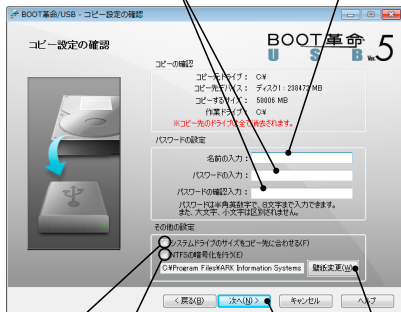


- USB メモリーをコピー先にする場合、使用容量が USB メモリーのサイズより大きいとコピーできません。
- ファイルリストの作成 (2-6 ページ) を行うと容量を減らすことができるため、コピーできる可能性があります。

USB デバイスから起動するためのパスワードと暗号化の設定を行います。

USB デバイスから起動するためのパスワードを設定します（空でも可）。半角英数で 8 文字まで。

セレクト画面に表示する名前を設定します。半角英数で 16 文字まで。



USB デバイスの暗号化を行います。

コピー先領域のサイズに合わせて拡大コピーされます。コピー先が USB メモリーの場合は選択できません。

①クリック

USB デバイスの壁紙を変更できます。

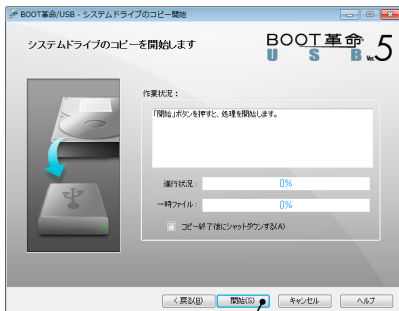


NTFS の暗号化を行うと、コピーをしたユーザー以外は USB デバイス上のファイル、フォルダーにアクセスできなくなります。

暗号化はコピー元内蔵ハードディスクのファイルシステムが NTFS のドライブのみで可能です。

Windows XP Home Edition、Windows Vista Home Basic/Home Premium、Windows 7 Starter/Home Basic/Home Premium ではこの機能は使用できません。

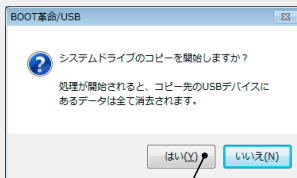
システムドライブのコピーが開始します。



②クリック

Point

コピー先の USB デバイスが空でない場合、消去（フォーマット）してからコピーが行われます。

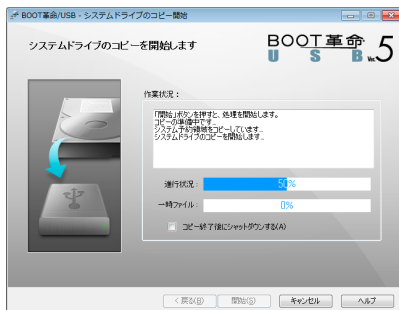


コピー先を消去してもよい場合「はい」をクリック



コピー先 USB デバイスの内容を消去（フォーマット）すると元に戻すことはできません。選択した USB デバイスに間違いがないかよく確認してください。

コピー中は進行状況が表示されます。



「キャンセル」をクリックするとコピーを中断できますが、コピー先 USB デバイスを元の状態に戻すことはできません。



コピーしたシステムドライブのアイコン

BOOT 革命 /USB でシステムドライブのコピーを行うと、「コンピューター（マイコンピューター）」画面でコピー先 USB デバイスのアイコンが変更されます。アイコンが変更されているドライブが、コピーしたシステムドライブなので、簡単に識別できるようになっています。

なお、Windows 7 では「システムで予約済み」領域も「コンピューター（マイコンピューター）」画面に表示されますが、Windows の起動に必要なドライブとなりますので、削除しないでください。

ハードディスク ドライブ (4)

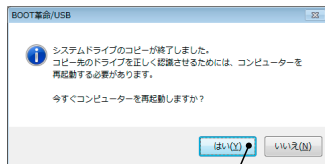
ローカル ディスク (C:)	ボリューム (D:)
空き領域 51.3 GB/66.8 GB	空き領域 66.3 GB/66.4 GB
システムで予約済み (E:)	ローカル ディスク (G:)
空き領域 71.8 MB/99.9 MB	空き領域 55.3 GB/66.8 GB

コピーが終了すると次の画面が表示されます。



⑥ クリック

コピー後はコンピューターを再起動します。

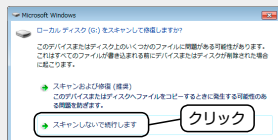


⑦ クリック



コピー後に表示されるメッセージについて

システムドライブのコピー終了後は USB デバイスに新しいドライブが作成されるため、Windows が次のメッセージを表示することがあります。このメッセージに対しては、「スキャンしないで続行します」をクリックしてください。

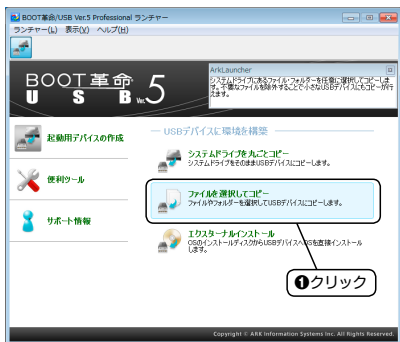


ファイルリストの作成

Windows の起動に必要なファイルを分析しリストを作成します。あらかじめファイルリストを作成することで、実際に使用しているファイルの容量よりも必要なファイル容量が少なくなり、容量の少ない USB デバイスにコピーすることができるようになります。

1 BOOT 革命 /USB の起動

Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「ファイルを選択してコピー」を選択します。



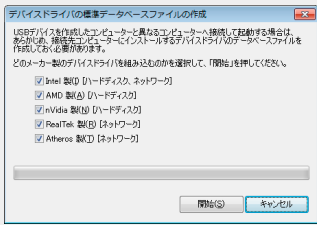
2 ファイルリスト新規作成

「ファイルリストを新規作成」をクリックします。



別のコンピューターで USB デバイスを使用する

システムドライブのコピーを行ったコンピューターとは別のコンピューターで使用する場合は、コピーを始める前にハードウェアのデータベースファイルを作成する必要があります。3-5 ページの操作でデータベースファイルを作成した後、システムドライブのコピーを行ってください。

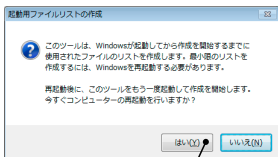


3 コンピューターの再起動

コンピューターを再起動する必要があります。



再起動のため、「はい」をクリックします。

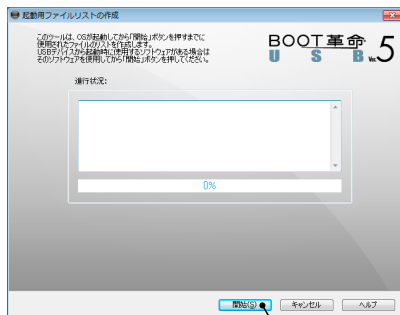


1 クリック

4 ファイルリスト作成の開始

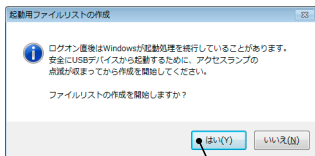
Windows が起動した後で 3 と同じ画面が表示されます。

ここで「開始」をクリックします。



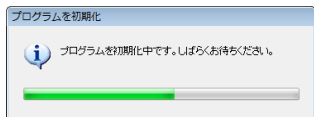
1 クリック

ハードディスクのアクセスランプの点滅が収まってから「はい」をクリックします。



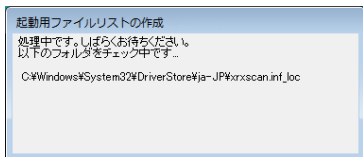
1 クリック

再起動後に取得した情報を元に、システムの分析が始まります。以降の操作には時間がかかりますので、他のアプリケーションを起動せずにそのまましばらくお待ちください。



- 初期化中の画面が表示されている間にスタートメニューや「ディスクの管理」画面などが開きますが、自動的に閉じますので、そのまましておいてください。

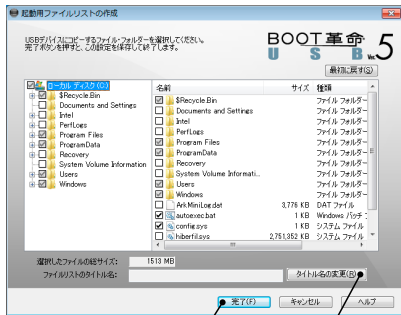
リストしたファイルのチェックが行われます。



5 ファイルリストの確認

リストされたファイルは、チェックボックスにチェックが入った状態で表示されます。

ここでチェックされているファイルがUSBデバイスにコピーされます。



①クリック

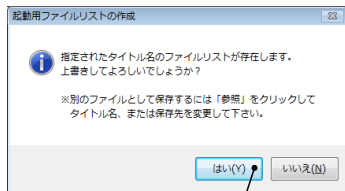
ファイルリストのタイトル名を変更することができます。



この画面では、チェックボックスのオン、オフを行うことで、ファイルの追加、削除を行うことができます。起動に必要なファイルを削除すると、USBデバイスから起動ができなくなりますので注意してください。

なお、ファイルリストを利用してコピーを行うと、別のコンピューターでUSBデバイスから起動した時にファイルが不足してOSが起動できない場合があります。この場合は「Windows」フォルダー、または「System32」フォルダーの中のファイルを全て選択することで起動ができるようになる場合があります。

同じタイトル名のファイルリストがあった場合、上書きの確認メッセージが表示されます。

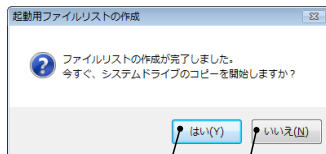


①上書きする場合はクリック

6 ファイルリスト作成の終了

以上でファイルリストの作成は完成となります。

続けて、このファイルリストを元にシステムドライブのコピーを行うことができます。



システムドライブのコピーは行わず、終了します。

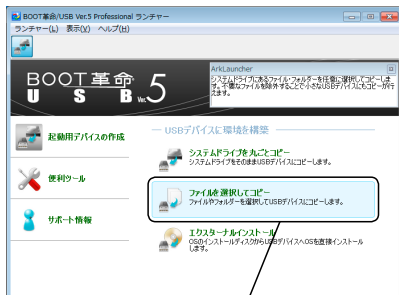
作成したファイルリストを元に、すぐにシステムドライブのコピーが始まります。
2-9 ページ、②以降を参照してください。

ファイルを選択してコピー（ファイルリストを使用する）

あらかじめ作成したファイルリストを使用して、システムドライブをコピーする手順です。

1 BOOT 革命 /USB の起動

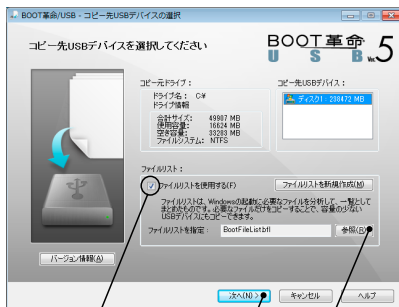
Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「ファイルを選択してコピー」を選択します。



①クリック

2 ファイルリストの選択

チェックボックスにチェックを入れて「参照」をクリックし、作成済みのファイルリスト（BFL ファイル）を選択します。



②チェックを入れる

③クリック

④クリック

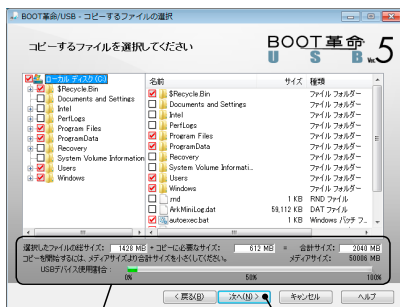
3 ファイルのチェック

ファイルのチェックが行われますので、しばらくお待ちください。



4 コピーするファイルの選択

ファイルリスト作成時に選択したファイルにチェックが入っています。ブランクのチェックボックスにチェックして、ファイルを追加することができます。ここでチェックされているファイルが USB デバイスにコピーされます。



選択（チェック）したファイルのサイズが USB デバイスのサイズより大きい場合、コピーできません。

⑤クリック

⑥クリック



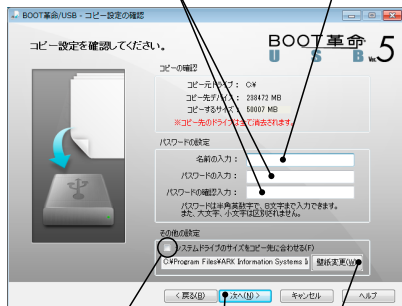
赤で表示されているチェックボックスは、Windows の起動に必要なファイルのため、チェックをはずすことはできません。

5 コピー設定の確認

USB デバイスから起動するためのパスワードの設定を行います。

USB デバイスから起動するためのパスワードを設定します（空でも可）。半角英数で 8 文字まで。

セレクト画面に表示する名前を設定します。半角英数で 16 文字まで。



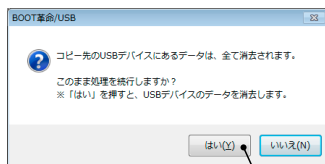
コピー先領域のサイズに合わせて拡大コピーされます。コピー先が USB メモリーの場合は選択できません。

USB デバイスの壁紙を変更できます。

1 クリック

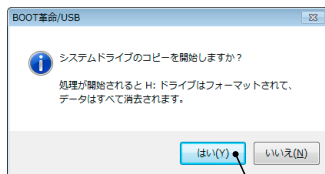
コピー前に USB デバイスの内容はすべて消去されます。

USB メモリーの場合はフォーマットされ、その後コピーが始まります。



USB ハードディスクの場合

1 クリック



USB メモリーの場合

1 クリック



コピーが始まると元に戻すことはできませんので、USB デバイスを間違っていないか、必要なデータが残っていないかを確認してください。

6 コピーの開始

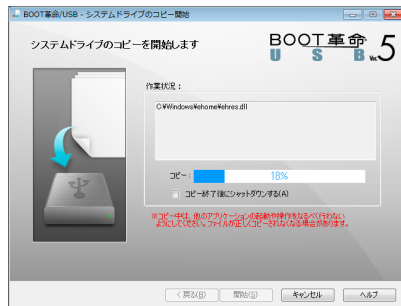
「開始」をクリックします。



1 クリック

7 コピーの実行

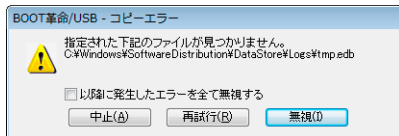
コピー中は進行状況が表示されます。





- コピー中は、他のアプリケーションの起動や操作をなるべく行わないようにしてください。ファイルが正しくコピーされない場合があります。

途中で次のメッセージが表示される場合があります。通常は「無視」を選択して先に進んでください。



8

コピーの完了

「完了」をクリックするとシステムドライブのコピーを終了します。



⑧クリック

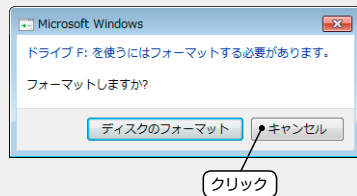
以上の操作で起動用 USB デバイスが作成されました。

USB デバイスから起動する操作方法は、3-2 ページを参照してください。



コピー後に表示されるメッセージについて

システムドライブのコピー終了後は USB デバイスに新しいドライブが作成されるため、Windows が次のメッセージを表示することがあります。このメッセージに対しては、「キャンセル」をクリックしてください。

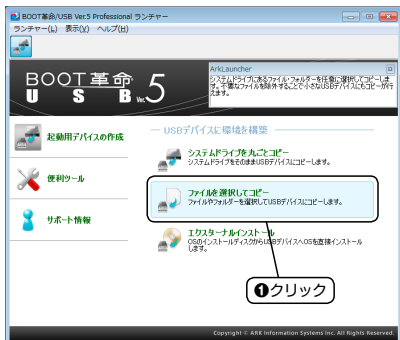


ファイルを選択してコピー（ファイルリストを使用しない）

ファイルリストを使用せずにシステムドライブをコピーする手順です。

1 BOOT 革命 USB の起動

Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「ファイルを選択してコピー」を選択します。



3 ファイルのチェック

ファイルのチェックが行われますので、しばらくお待ちください。



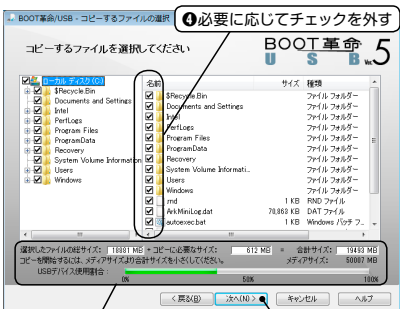
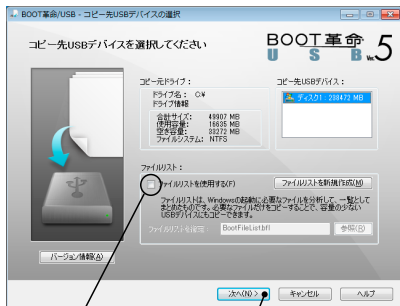
4 コピーするファイルの選択

すべてのチェックボックスにチェックが入っています。必要に応じてファイルの総サイズを確認しながらチェックを外し、選択を解除してください。

ここでチェックされているファイルが USB デバイスにコピーされます。

2 ファイルリストの選択

チェックボックスにチェックがあるときは外し、「次へ」をクリックします。



選択（チェック）したファイルのサイズが USB デバイスのサイズより大きい場合、コピーできません。



Windows の起動に必要なファイルを削除すると、USB デバイスから起動できません。選択を解除するファイルに注意してください。

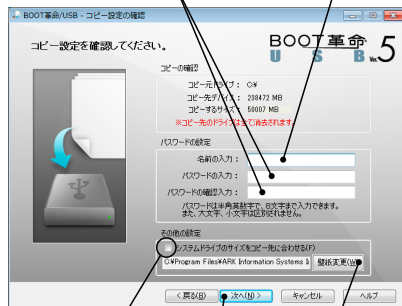
5

コピー設定の確認

USB デバイスから起動するためのパスワードの設定を行います。

USB デバイスから起動するためのパスワードを設定します（空でも可）。半角英数で 8 文字まで。

セレクト画面に表示する名前を設定します。半角英数で 16 文字まで。



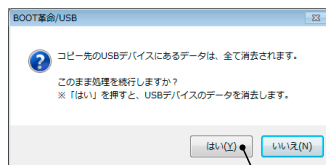
コピー先領域のサイズに合わせて拡大コピーされます。コピー先が USB メモリーの場合は選択できません。

USB デバイスの壁紙を変更できます。

0クリック

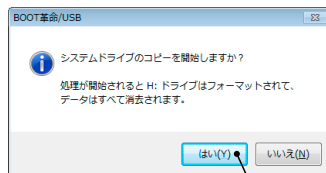
コピー前に USB デバイスの内容はすべて消去されます。

USB メモリーの場合はフォーマットされ、その後にコピーが始まります。



USB ハードディスクの場合

0クリック



USB メモリーの場合

0クリック

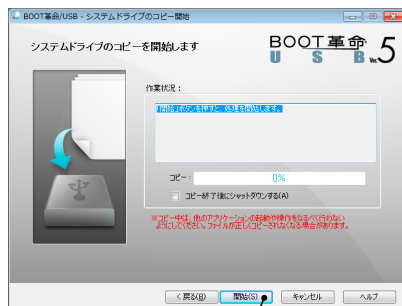


コピーが始まると元に戻すことはできませんので、USB デバイスを間違っていないか、必要なデータが残っていないかを確認してください。

6

コピーの開始

「開始」をクリックします。

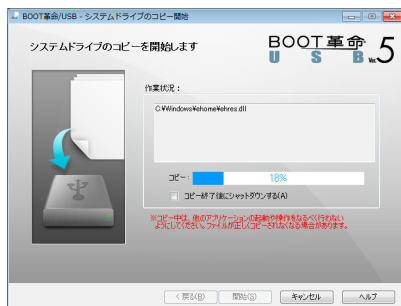


0クリック

7

コピーの実行

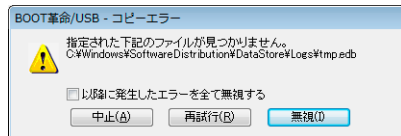
コピー中は進行状況が表示されます。





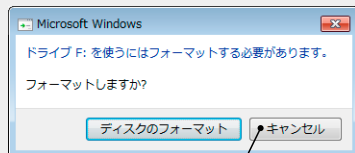
- コピー中は、他のアプリケーションの起動や操作をなるべく行わないようにしてください。ファイルが正しくコピーされない場合があります。

途中で次のメッセージが表示される場合があります。通常は「無視」を選択して先に進んでください。



コピー後に表示されるメッセージについて

システムドライブのコピー終了後は USB デバイスに新しいドライブが作成されるため、Windows が次のメッセージを表示することがあります。このメッセージに対しては、「キャンセル」をクリックしてください。



クリック

8

コピーの完了

「完了」をクリックするとシステムドライブのコピーを終了します。



⑧クリック

以上の操作で起動用 USB デバイスが作成されました。

USB デバイスから起動する操作方法は、3-2 ページを参照してください。

エクスターナルインストール (Basic 版は非対応)

次の条件に該当する Windows では、「エクスターナルインストール」によって USB デバイスに直接インストールすることができます。

「エクスターナルインストール」が可能な Windows (日本語版のみ)

- ・ Microsoft Windows 7 Home Basic (SP0 ~ SP1)
- ・ Microsoft Windows 7 Home Premium (SP0 ~ SP1)
- ・ Microsoft Windows 7 Professional (SP0 ~ SP1)
- ・ Microsoft Windows 7 Ultimate (SP0 ~ SP1)
- ・ Microsoft Windows Vista Home Basic (SP1 ~ SP2)
- ・ Microsoft Windows Vista Home Premium (SP1 ~ SP2)
- ・ Microsoft Windows Vista Business (SP1 ~ SP2)
- ・ Microsoft Windows Vista Ultimate (SP1 ~ SP2)
- ・ Microsoft Windows XP Home Edition (SP2 ~ SP3)
- ・ Microsoft Windows XP Professional (SP2 ~ SP3)

※ Microsoft 社から発売されている正規版のインストールディスク(OEM 版、DSP 版も可)が必要です。ただし、メーカー製コンピューターに付属しているインストールディスクはメーカー独自仕様の場合があり、エクスターナルインストールで使用できないことがあります。

※ メーカー製のコンピューターに付属している「リカバリー CD」は、Windows インストールディスクとは異なりますので、エクスターナルインストールに使用することはできません。

※ 対象 Windows であっても、アップグレード版はエクスターナルインストールの対象外となります。

※ 日本語版以外のインストールディスクも使用できますが、動作保証外とさせていただきます。

1 BOOT 革命 /USB の起動

Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「エクスターナルインストール」を選択します。



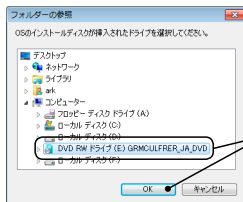
1 クリック

2 インストールディスクの挿入

Windows のインストールディスクを挿入し、「参照」をクリックします。



2 クリック



1 インストールディスクを挿入したドライブを選択し、「OK」をクリック

インストールディスクの情報が表示されます。



④クリック

3 エディションの選択 (Windows 7/Vista)

使用する OS のライセンスを確認し、エディションを選択してください。



⑤エディションを選択

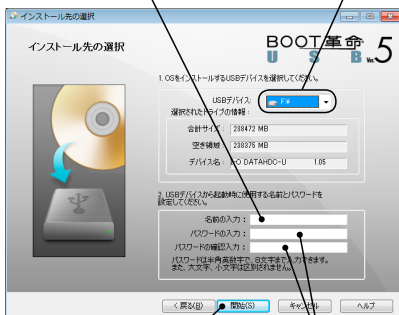
⑥クリック

4 USB デバイスの選択

USB デバイスのドライブを選択します。

セレクト画面に表示する名前を設定します。半角英数で 16 文字まで。

⑦ドライブを選択

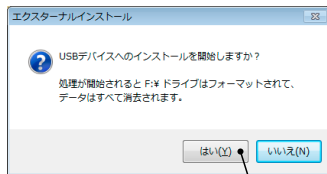


⑧パスワードを設定

USB デバイスから起動するためのパスワードを設定します（空でも可）。半角英数で 8 文字まで。

5 コピーの開始

確認画面で「はい」をクリックするとコピーが開始します。

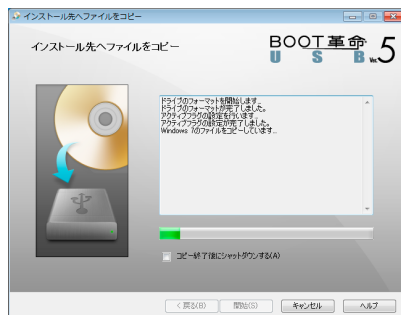


⑨はい



「はい」をクリックするとコピー先ドライブの内容がすべて消去されます。間違いがないかよく確認してください。

ドライブのフォーマットに続き、インストールディスクから必要なファイルのコピーが行われます。



コピーの終了後、インストールディスクはイジェクトされます。



⑩クリック

以上で USB デバイスへのコピーは完了しましたが、OS のインストールを続行するためには、この後 USB ハードディスクから起動する必要があります。

インストールディスクを取り出し、BOOT 革命 /USB Ver.5 の製品 CD に入れ替えてコンピュータを再起動します。

再起動後に「Press any Key…」のメッセージが表示されますので、「ESC」キー以外のキーを押してください。USB デバイスから起動します。



以降の操作手順は、3-2 ページの ③ を参照してください。



- エクスターナルインストールでインストールする
- OS のライセンスは、その OS の使用許諾に従って使用してください。お客様が BOOT 革命 / USB で OS の使用許諾の範囲を超えて（あるいはライセンス契約に違反して）使用した場合、弊社は一切の責務および賠償責任を負いません。



エクスターナルインストールとデバイスドライバー

「エクスターナルインストール」では Windows インストールディスクから新規にインストールするため、USB デバイスから起動するとサウンドが鳴らなかったり、LAN が使えないことがあります。これはインストール時にデバイスドライバーの登録ができていないことが原因です。

お使いの環境でサウンドや LAN を使用する場合は、必要なデバイスドライバーをコンピューター付属の CD やインターネット上から入手し、導入する必要があります。

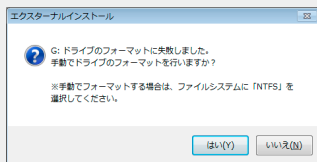
デバイスドライバーの詳細については、コンピューターメーカーにお問い合わせください。



表示「フォーマットに失敗しました」について

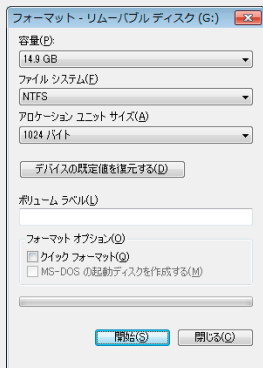
エクスターナルインストールを実行すると、選択したパーティションをフォーマットしてからインストールが行われます。

パーティションが OS や他のアプリケーションによって使用中である場合はフォーマットができず、下のメッセージが表示されます。



そのまま処理を続行する場合は「はい」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、エクスターナルインストールが終了します。

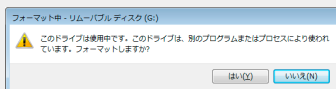
「はい」をクリックした場合は下のフォーマット画面が表示されます。



画面の一番上のドライブ文字と容量を見て、インストール先として選択したドライブであることを確認してください。

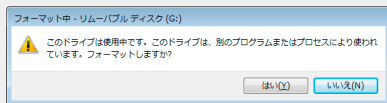
「ファイルシステム」が「NTFS」となっていることを確認し、「開始」をクリックしてください。

「開始」をクリックすると、警告メッセージが表示されます。メッセージの内容を確認して、フォーマットを開始してください。

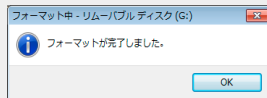


ドライブが使用中の場合は次のメッセージが表示されます。

「はい」をクリックするとフォーマットが始まります。



フォーマット完了後に表示される下のメッセージ画面で「OK」を押すと、最初のフォーマットの画面に戻ります。フォーマット画面で「閉じる」をクリックして画面を閉じてください。「インストール先へファイルをコピー」の画面に戻り、処理が続行します。



※「フォーマット」に関する詳細は、ご使用 OS のヘルプ、マニュアルなどを参照してください。



サードパーティ製のデバイスドライバを使用している環境について

USB デバイスへの必要なファイルのコピーが終わったとき、下のメッセージが表示されることがあります。これは現在使用している内蔵ハードディスクのデバイスドライバーが、Microsoft 標準ではない場合に表示されます。



「はい」をクリックするとデバイスドライバーを選択するための下の画面が表示されます。「いいえ」をクリックすると、Microsoft 標準のドライバーがインストールされます。



ここでインストールするデバイスドライバーを選択することができます。適切なデバイスドライバーをインストールすることで起動が可能になる場合があります。

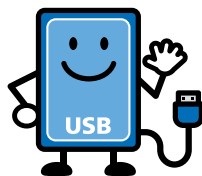
ハードウェアメーカーからデバイスドライバーが提供されている場合は、下の画面で「参照」をクリックしてデバイスドライバーの inf ファイルを選択します。

下の画面では、Intel の SATA RAID Controller が検出されていますので、「iastor.inf」を追加し必要なデバイスドライバーを追加します。デバイスドライバーが見つからない場合は、ハードウェアメーカーの Web サイトからダウンロードできる場合があります。デバイスドライバーの入手方法は、ハードウェアメーカーにお問い合わせください。



第 3 章

USB デバイスから Windows を起動



ここでは、BOOT 革命 /USB を使用して、USB ハードディスクや USB メモリーなどの USB デバイスから Windows を起動する手順について説明しています。

USB デバイスから Windows を起動

システムドライブをコピーした USB デバイスから Windows を起動することができます。

1 USB デバイスの接続

システムドライブをコピー、または OS をインストールした USB デバイスをコンピューターに接続します。

2 製品 CD を挿入

製品 CD をドライブに挿入し、コンピューターを起動します。



製品 CD から起動できない場合は、コンピューターの BIOS で CD/DVD ドライブから起動できるようになっているかを確認してください。

3 USB デバイスからの起動を選択

「Press any key to boot…」のメッセージが表示されている間に、キーボードで何かキーを押します。

Press any key to boot from USB Device (Press "ESC" for cancel) 7_

※「ESC」キーを押すか、カウントが0になると、USB デバイスからの起動がキャンセルされ、内蔵ハードディスクから Windows が起動します。



通常は BIOS 起動モードで起動しますが、起動できない場合は、上記メッセージが表示されている間に「Q」キー（High Speed Mode）または「N」キー（Normal Speed Mode）を押し、別のモードで起動してみてください。

USB デバイスが見つかるとメッセージが表示されます。

Press any key to boot from USB Device (Press "ESC" for cancel) 7_
Find USB...
Find USB...B

この後に「High Speed Mode Boot from USB Device」、「Normal Speed Mode Boot from USB Device」と表示されることもあります。

4 パスワードの入力

パスワードを入力し、「Enter」キーを押します。パスワードを設定していない場合は、そのまま「Enter」キーを押します。

Enter Password: _

Point

入力するパスワードは、「コピー設定の確認」（2-4 ページの 3）、または「インストール先の選択」（2-16 ページの 4）で設定したパスワードとなります。

5 起動する USB デバイスの選択

起動する USB デバイスを選択します。カウントが0になると、自動的に選択されている USB ハードディスクから起動します。

HP USB Boot Version 5.0
Found USB Device:
No User Name
USB1 arkushdd
USB2 arkushdd2
USB3 arkushwew
Please choose(Press "Enter" key for confirm).3_



BOOT 革命 /USB でコピーを行っていない USB デバイスは表示されません。起動してしばらくは黒い画面のまま何も表示されない状態で処理が行われます。Windows の起動画面が表示されるまで時間がかかることがありますが、USB デバイスがアクセス状態であれば動作していますので、そのまましばらくお待ちください。

6 USB デバイスから Windows が起動

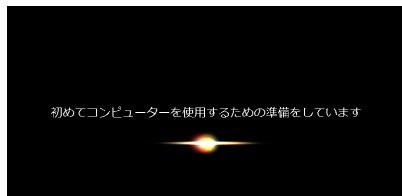
USB デバイスから Windows が起動します。以後、通常と同じように操作を行うことができます。



「エクスターナルインストール」(2-15 ページ)を行っていた場合は、この後に Windows のセットアップが始まります。

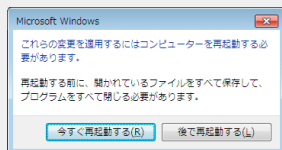
以後、セットアップ画面の指示に従い、OS のインストールを行ってください。

途中で何回かコンピュータが再起動し、OS のインストールが終わるまで、再起動することに 3 の操作により USB デバイスから起動してください。

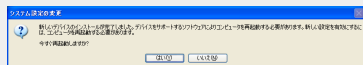


起動後の USB デバイスの認識について

USB デバイスから初めて起動したときに、次のメッセージが表示されます。USB デバイスを正しく認識するためには「今すぐ再起動する」、「はい」をクリックしてコンピュータを再起動してください。



Windows 7/Vista



Windows XP



USB 起動コードの読み込みについて

USB デバイスから起動させるための「USB 起動コード」を、製品 CD から読み込む方法と内蔵ハードディスクに書き込む方法があります。

どちらでも同じ USB 起動コードが読み込まれますが、内蔵ハードディスクに書き込む方法ではマスターブートレコード (MBR) を変更しますので、他社製品と競合することがあります。製品 CD を使用する方法がより簡単かつ安全ですので、CD/DVD ドライブがある場合は製品 CD を使用してみてください。



USB デバイスからの起動について

起動用 USB デバイスから起動した場合は起動用 USB デバイスの Windows が C ドライブとなり、元のシステムドライブ (Windows がインストールされていたハードディスクドライブ) のドライブ文字は別のドライブ文字に割り当てられています。ハードディスクの操作を行う場合は、ドライブ文字をよく確認してから実行するようにしてください。

ディスク 0		
ベーシック	(G:)	(D:)
152.67 GB	48.82 GB NTFS	103.85 GB NTFS
オンライン	正常 (アクティブ、プライマリパーティション)	正常 (プライマリパーティション)

ディスク 1	
ベーシック	Windows (C:)
7.48 GB	7.48 GB NTFS
オンライン	正常 (システム、ブート、アクティブ、クラッシュ ダンプ、ブレイク)

「どこでも起動」について

「どこでも起動」とは、システムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行ったコンピューターとは別のコンピューターに、USB デバイスを接続して起動を行う一連の操作の総称です。「どこでも起動」を行うには、システムドライブのコピー時、および別のコンピューターでの起動時にいくつかの作業が必要です。

「どこでも起動」の概要

「どこでも起動」を行うためには、始めにデバイスドライバのデータベースファイルを作成します。その後システムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行うことで、USB デバイスにデータベースファイルが収録されます。

別のコンピューターに USB デバイスを接続して起動したときに、必要なドライバが不足して Windows が起動できない場合は、環境修復ツールを利用して USB デバイス上のデータベースファイルから必要なドライバを読み込むことで、Windows を起動できるようにします。

なお、データベースファイルの作成に必要なドライバはメーカー Web サイトよりダウンロードしますので、インターネットに接続できる環境が必要です。

「どこでも起動」を行う際の注意事項

「どこでも起動」で起動したコンピューターで Windows のライセンスを再認証する必要があります。

環境修復ツールを使用してもインストールされているアプリケーションや相性の問題で、USB デバイスから Windows が起動できない場合があります。すべての環境における動作保証はできませんのでご了承ください。

「どこでも起動」を行う手順

以下の手順で「どこでも起動」を行います。

- ① ドライバのデータベースファイルを作成します。
- ② USB デバイスにシステムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行います。
- ③ 別のコンピューターに USB デバイスを接続します。
- ④ USB デバイスの環境修復ツールを実行します (3-7 ページ)。

データベースに登録されるドライバ

データベースファイルには以下のドライバが標準で登録されます。

・ハードディスクドライバ

Intel : ICH7 ~ ICH10 の SATA ACHI/RAID
ICH6 の一部 (ESB2 SATA AHCI/RAID)

AMD : SB7xx、SB8xx

nVidia : MCP61/68、MCP72/78

・ネットワークドライバ

Intel
RealTek
Atheros

OS の再インストールなどでファイルが削除されない限り、再作成の必要はありません（再作成は「操作」→「標準のデータベースファイルを作成する」を選択して行うことができます）。

ドライバデータベースの作成終了後、USB デバイスにシステムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行います。

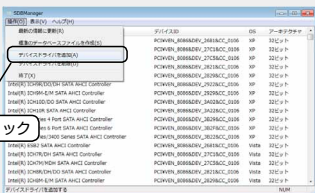


標準データベースにないドライバを追加する

標準データベースにないサードパーティ製のドライバを手動にて追加登録することが出来ます。ただし、追加できるドライバはハードディスク用とネットワーク用のドライバのみとなります。その他のドライバは追加できません。また、ドライバによっては正しく追加できないものがあります。

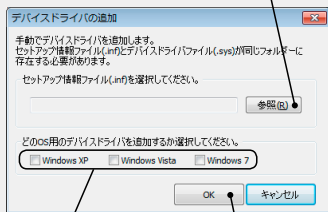
ドライバは通常ハードウェアに添付されていますが、ハードウェアメーカーの Web サイトからのダウンロードが必要な場合もあります。詳しくはハードウェアメーカーの Web サイトをご覧ください。

ドライバの一覧画面で、「操作」メニューから「デバイスドライバを追加」を選択します。



「参照」をクリックし、ドライバ情報ファイル（inf ファイル）を選択します。情報ファイル（.inf）とドライバ本体（.sys）は、同じフォルダーにおいてください。

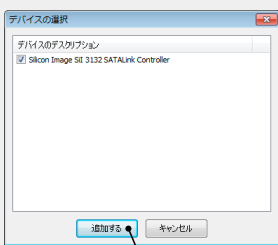
①クリックして inf
ファイルを選択



② OS を選択

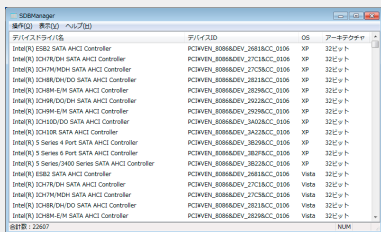
③クリック

セットアップ情報ファイルの一覧が表示されますので、デバイスを選択します。



④クリック

選択したドライバが一覧に追加されます。



環境修復ツール

システムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行ったコンピューターとは別のコンピューターにUSBデバイスを接続して起動した際に、Windowsの起動に必要なドライバが不足して起動できないような場合は、環境修復ツールを利用して後からドライバをインストール(追加)することができます。

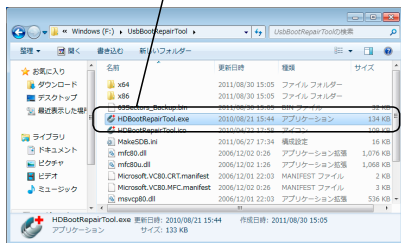
1 USBデバイスの接続

システムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行ったUSBデバイスを接続し、内蔵ハードディスクからWindowsを起動します。

2 環境修復ツールを起動

USBデバイスのシステムドライブに該当するドライブの中に、「UsbBootRepairTool」フォルダーが作成されています。このフォルダーの中にある「HDBootRepairTool.exe」を実行します。

①「HDBootRepairTool.exe」を実行



- システムドライブのコピー前にデータベースファイルを作成していない場合は、環境修復ツールを起動する前に同じフォルダーにある「SDBManager.exe」を実行してデータベースファイルを作成してください。

3 ディスクとOSの選択

システムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールを行ったOS(Windows)がインストールされているUSBデバイスとパーティションを選択します。

② USBデバイスを選択

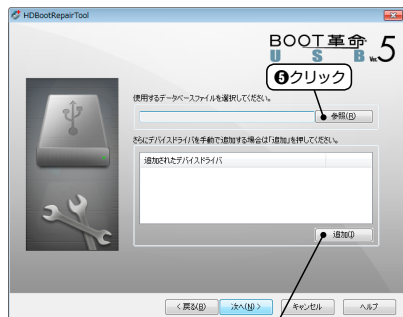


③ Windowsがインストールされているパーティションを選択

④ クリック

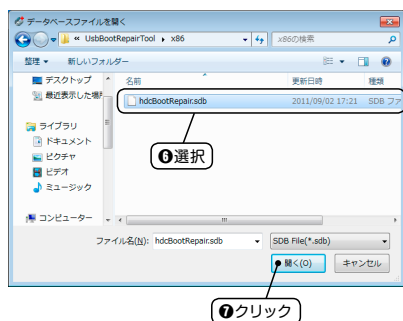
4 ドライバの登録

作成したデータベースファイル(SDBファイル)を指定するか、Windowsの起動に必要なハードウェアのドライバ情報ファイル(infファイル)を選択します。



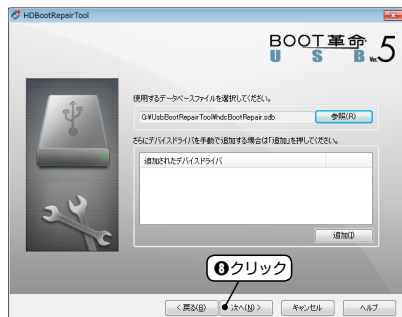
ドライバ情報ファイル (inf ファイル) を使用する場合はクリックして追加します。

「UsbBootRepairTool」フォルダー中の「hdcBootRepair.sdb」ファイルを選択します。



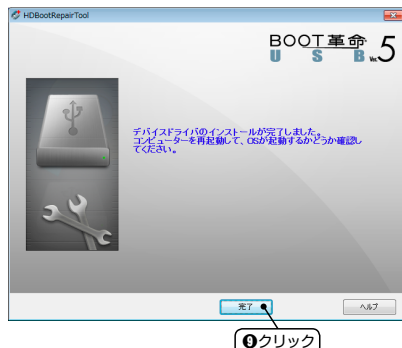
Point

「hdcBootRepair.sdb」は、起動中の Windows により作成される場所が異なります。32Bit 版の場合は「x86」フォルダーに、64bit 版の場合は「x64」フォルダーに「hdcBootRepair.sdb」が作成されますので、このファイルを指定してください。



5 コンピューターの再起動

コンピューターを再起動してください。



ドライバ情報ファイル (inf ファイル) を使用する場合は、起動する OS 用のドライバをインストールしてください。例えば、システムドライブのコピーを行った OS が Windows 7 だった場合、Windows XP 用のドライバをインストールしても OS を起動することができません。ドライバは通常ハードウェアに添付されていますが、ハードウェアメーカーの Web サイトからのダウンロードが必要な場合もあります。詳しくはハードウェアメーカーの Web サイトをご覧ください。

USB デバイスから内蔵ハードディスクに復元 (コピー)

(Basic 版、Standard 版は非対応)

USB デバイスからコンピューターを起動して、起動中の Windows 環境を内蔵ハードディスクに復元 (コピー) することができます。

復元を実行する前に

USB デバイスから内蔵ハードディスクに復元 (コピー) を行くと、通常は内蔵ハードディスクのパーティションがすべて消去されます。コンピューターによっては、リカバリーデータが保存されているパーティションまで消去されてしまいますので、この操作には注意が必要です。

なお、コピー先ディスクの先頭に「未割り当て」の領域がある場合は、一部制限がありますがコピー先をすべて消去することなく、コピーすることができる場合があります。詳しくは 5-2 ページを参照してください。

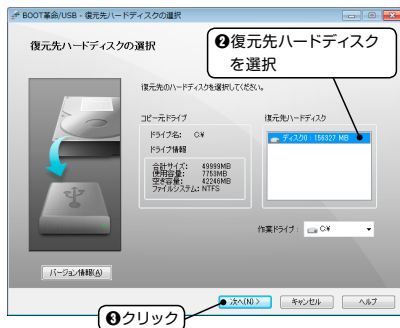
1 BOOT 革命 / USB の起動

Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「システムドライブを丸ごとコピー」を選択します。



2 復元先ハードディスクの選択

復元 (コピー) 先内蔵ハードディスクを選択します。



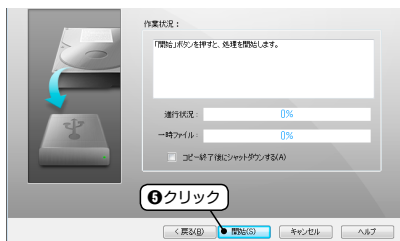
3 コピー設定の確認

コピー先のハードディスクを確認します。



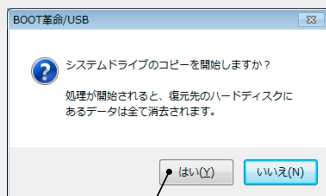
4 コピーの開始

システムドライブのコピーを開始します。



Point

復元（コピー）先の内蔵ハードディスクが空でない場合、消去してからコピーが行われます。

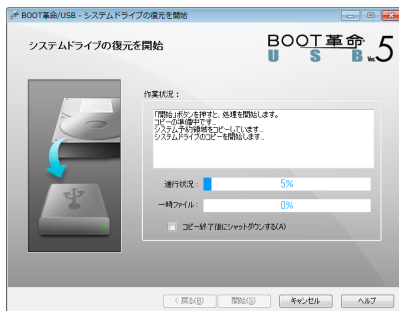


コピー先を消去してもよい場合「はい」をクリック

⚠ 内蔵ハードディスクの内容を消去すると元に戻すことはできません。選択した内蔵ハードディスクに間違いがないかよく確認してください。

5 コピーの実行

コピー中は進行状況が表示されます。



⚠ 「キャンセル」をクリックするとコピーを中断できますが、コピー先内蔵ハードディスクを元の状態に戻すことはできません。

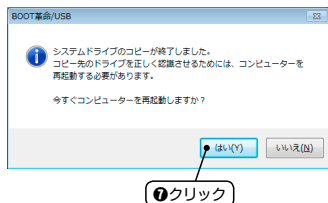
6 コピーの終了

コピーが終了すると次の画面が表示されます。



7 コンピューターの再起動

コピー終了後はコンピューターを再起動します。再起動後、内蔵ハードディスクから起動することができます。



USBデバイスからインストールを行ったデバイスからの復元について

エクステルナルインストールを行っている場合はBOOT革命/USBがインストールされていないため、そのままでは復元を行うことができません。USBデバイスからWindowsを起動し、BOOT革命/USBをインストールすることで復元を行うことができます。

USB デバイスから起動できない場合の確認事項

USB デバイスから起動できない場合、以下の内容を確認してください。

1 システム環境の確認

- Windows XP のサービスパックを適用していますか？

Windows XP は SP2 以降が適用された環境が必要です。サービスパックのバージョンが低いと USB デバイスから起動することができません。対応するサービスパックをインストールした後に、システムドライブのコピーを行ってください。

2 USB デバイス接続環境の確認

- USB ハードディスクの電源は入っていますか？ (USB ハードディスクの場合)

起動する USB ハードディスクの電源が入っているか確認してください。

- USB ハードディスクにモード切替スイッチがありますか？ (USB ハードディスクの場合)

USB ハードディスクに“電源連動機能 (AUTO)”と“電源が常に [ON]”の切り替えスイッチがあるときは、スイッチを常に電源が「ON」の状態になるようにしてみてください。

また、(株)アイ・オー・データ社の HDPG シリーズには仮想ドライブの設定スイッチがありますので、「シングルモード」に設定して使用してください。

- USB ハードディスクに USB ポートがありますか？ (USB ハードディスクの場合)

USB ハードディスクに USB ポートがある場合、USB ハードディスクから起動したときに「新しいハードウェアの追加」が行われてしまい、2 回目からの起動ができなくなることがあ

ります。この場合は、起動に使用する USB ハードディスクを変更してください。

- USB デバイスは正しく認識されていますか？

Windows を起動したときに USB デバイスが正しく認識されていない場合は USB デバイスから起動することができません。「コンピューター」や「ディスクの管理」画面で USB デバイスが正しく認識されているかどうかを確認してください。なお、環境によっては Windows を起動してから USB デバイスを接続しないと認識できない場合がありますが、このような環境では、USB デバイスからの起動はできません。

- USB デバイスを接続した後に Windows の再起動を行いましたか？

USB デバイスを初めて接続したときなどに「新しいハードウェアの検出」メッセージが表示されたときは、コンピューターの再起動を行ってください。再起動せずにシステムドライブのコピーを行うと、起動できない場合があります。

- USB デバイスを接続した状態でコンピューターを起動できますか？

コンピューターと USB デバイスとの相性により、USB デバイスを接続しているとコンピューターの起動が (BIOS やメーカーロゴ画面から先に進まなくなる) ことがあります。このような環境では、USB デバイスからの起動はできません。

- コンピューター本体の USB ポートに接続していますか？

USB デバイスをキーボードやモニターにつ

いている USB ポートに接続していると、起動できない場合があります。コンピューター本体の USB ポートに接続してください。

● USB 拡張カードを使用していますか？

USB デバイス が、PCI Express (PCIe)、PCI、PCMCIA などの拡張 USB ポートに接続されている場合は、起動できないことがあります。コンピューター本体の USB ポートに接続してください。

●他の USB デバイスが接続されていませんか？

起動させる USB デバイス以外の USB デバイス (マウス、キーボードを含む) が接続されている場合は、可能であれば他の USB デバイスを外してみてください。

●別の USB ポートに接続して起動してみますか？

USB ポートが複数ある場合は、別の USB ポートに接続して、システムドライブのコピーをもう一度行い、起動ができるかを確認してみてください。

● USB ハブを使用していますか？

USB ハブを使用する場合は、USB デバイスをハブに接続してからシステムドライブのコピーを行うようにしてください。システムドライブのコピー後は、USB ハブ、USB デバイスは、常にシステムドライブのコピーを行った USB ポートに接続するようにし、変更しないでください。変更した場合は、再度システムドライブのコピーを行うようにしてください。

なお、USB ハブ接続時は環境によっては起動できないことがありますので、起動できない場合は、コンピューター本体の USB ポートに接続して起動を確認してください。

● SCSI、RAID、SATA、eSATA ボード (カー

ド) が接続されていませんか？

SCSI、RAID、SATA、eSATA などの拡張ボード (カード) が接続されている場合、競合が発生し USB デバイスからの起動ができないことがあります。拡張ボード (カード) を外すことができる場合は、外して起動できるかを確認してみてください。

また、オンボードで RAID 機能があるマザーボードで、RAID を使用していない場合は、BIOS で無効 (Disable) にしてみてください。

3 起動コード読み込み時の確認

●コンピューターの起動時に「Press any key to boot from USB Device (Press "ESC" for cancel)」というメッセージが表示されますか？

「製品 CD」をドライブに挿入してコンピューターを起動しても、起動時に USB デバイスから起動するかどうかのセレクトが表示されない場合、コンピューターの BIOS で、CD/DVD から起動できるように (起動順番を一番先頭になるように) してください。

●他の方法で USB 起動コードの読み込みを行ってみましたか？

「製品 CD」を使用して起動コードの読み込みを行っている場合、内蔵ハードディスクに起動コードを書き込んで起動してみてください。なお、内蔵ハードディスクへの起動コードの書き込みは、第 1 章の「注意・制限事項」を確認してから行ってください。

●モードを指定して起動させてみましたか？

「Press any key to boot from USB Device (Press "ESC" for cancel)」というメッセージが表示されているときに、「N」キーを押すと「Normal Speed Mode」、「Q」キーを押すと「High Speed Mode」で起動します。また、起動デバイスが USB メモリーの場合は、

「M」キーを推すと「USB メモリー起動モード」となります。

環境によっては、モードを変更することで起動できることがあります。

4 相性およびデバイスドライバーの確認

●別の USB ハードディスクに変えた場合は起動できますか？

使用するコンピューターと USB デバイスの相性により起動できないことがあります。この場合は、別の USB デバイスに交換すると起動できることがあります。

●USB ドライバーがマイクロソフト標準のドライバーになっていますか？

ハードウェアメーカーから提供されている USB コントローラーを認識するためのドライバーをインストールしている場合、起動できないことがあります。

ハードウェアメーカーのドライバーを使用しているときは、デバイスマネージャーの USB コントローラーに登録されているデバイスを、マイクロソフト標準のドライバーにしてください。

5 コンピューター BIOS の確認

●コンピューターの BIOS が USB 起動に対応していますか？

BIOS が USB デバイスからの起動に対応している場合、BOOT 革命 /USB の「USB 起動コード」を使用せずに、BIOS で起動させることができる場合があります。起動デバイスの順番（優先順位）を、USB デバイスが一番先頭になるように設定してみてください。

●American Megatrends（アメリカンメガトレンド）社の BIOS が搭載されたコンピューターですか？

American Megatrends（アメリカンメガトレンド）社の BIOS が搭載されたマザーボードでは、「QuickBoot」や「BootBooster」という、起動を早くする設定がありますが、この設定をオフ（Disable）にしてみてください。

●BIOS で USB に関する設定は変更してみましたか？

BIOS の USB に関する設定を変更することで、起動できるようになる場合があります。BIOS に次の項目がある場合は、その項目を現在の設定から変更してみてください。

- ・「USB Legacy Device Support」
- ・「Legacy USB Support」
- ・「USB-FDD Legacy Support (Emulation)」
- ・「USB Keyboard Support」
- ・「USB 2.0 Controller」
- ・「USB レガシーサポート機能」

例えば、USB に関する設定が「使用しない（無効、Disable）」になっている場合は「使用する（有効、Enable）」にしてみてください（初期設定が逆の場合もあります）。

また、機種によっては、USB に関する項目で「FD」や「CD」と直接デバイスが指定されていることがありますが、同様に別の設定に変更してみてください。

※ BIOS の設定で USB に関する項目を無効（Disable）にした場合、お使いの機種によっては USB キーボード、USB マウスが使用できなくなります。そのため、コンピューター起動時に USB デバイスから起動するかどうかのセレクト画面で入力ができないため、USB デバイスから起動させることができません。使用可能であれば PS2 接続のマウス、キーボードを使用してください。

●環境修復ツールを実行してみましたか？

お使いのコンピューター環境によっては、システムドライブのコピー、またはエクスターナルインストールでインストール終了後に、環境修復ツールで Windows 環境を修復しなければならない場合があります。環境修復ツールについては、3-7 ページをご覧ください。

なお、どこでも起動（別のコンピューターに接続して起動）を行う場合は、起動したいコンピューターに接続してから環境修復ツールを実行してください。



BIOS 設定画面について

BIOS はコンピューターの電源を入れたと最初に起動するシステムで、BIOS 設定画面では各種デバイスの状態の確認やコントロールを行うことができます。

* *

コンピューターの BIOS が USB デバイスからの起動に対応している場合、BIOS 設定画面で、起動するデバイスの優先順位を変更することにより USB メモリーから起動できるようになります。

* *

なお、最近のメーカー製コンピューターでは、起動時にファンクションキーを押すことで起動するデバイスを選ぶメニューが表示される機種が増えており、BIOS 設定画面でデバイスの優先順位を変更する必要がないため、以前と比べてより簡単に変更が可能となっています。

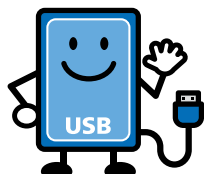
* *

また、同じメーカーでも発売時期や型番により起動メニューや BIOS 設定画面を表示するためのキーが異なることがあり、設定画面も英語表記のものや日本語表記のものがあります。メーカーや機種によって様々であるため、その具体的な方法は弊社ではお答えすることはできません。コンピューター付属のマニュアルやヘルプを参照するか、ハードウェアメーカーにお問い合わせください。



第 4 章

便利ツール



ここでは、BOOT 革命 /USB を、より有効に利用していただくための便利ツールについて説明しています。

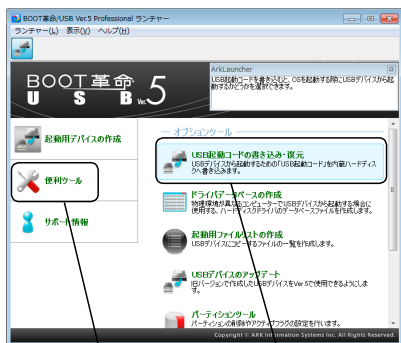
USB 起動コードの書き込み・復元

USB 起動コードには、USB デバイスから Windows を起動するために必要な情報が書かれています。

この起動コードをハードディスクに書き込むことで、製品 CD を使用せずに USB デバイスから起動することができます。

1 ツールの選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「USB 起動コードの書き込み・復元」を選択します。



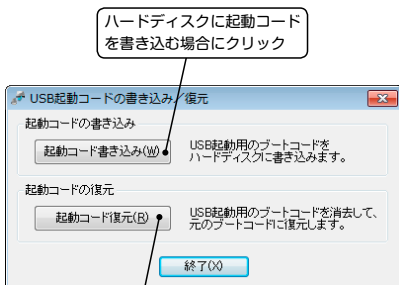
1 クリック

2 クリック

⚠ ハードディスクのマスターブートレコード (MBR) を書き換えるようなソフトウェア (マルチブートユーティリティなど) を使用している場合は、起動コードの書き込みを行わないでください。そのようなソフトウェアを使用している場合は「製品 CD」でコンピューターを起動し、USB デバイスの Windows を起動するようにしてください。

2 起動コードの書き込み・復元

書き込みまたは復元の操作を選択します。



ハードディスクに起動コードを書き込む場合にクリック

ハードディスクに書き込んだ起動コードを元に戻す場合にクリック

⚠ ハードディスクに起動コードを書き込んだ場合は、コンピューターのリカバリーや再インストールを行う前に、「USB 起動コードの書き込み・復元」ツールで起動コードの復元を行ってください。

起動用ファイルリストの作成（再編集）

既に作成してあるファイルリストを編集することが可能です。

1

ツールの選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「起動用ファイルリストの作成」を選択します。



2

「ファイルリストの再編集」を選択

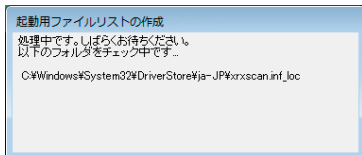
編集したいファイルリストを指定します。



3 クリックボックスにチェックを入れ、「参照」ボタンでBFL ファイルを指定

4 クリック

リストしたファイルのチェックが行われます。



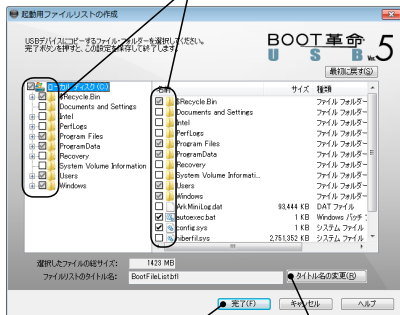
3

ファイルリストの編集

リストされたファイルはチェックが入った状態で表示されます。

ここで選択されているファイルが USB デバイスにコピーされます。

チェックボックスのオン、オフによってファイルの追加・削除を行うことができます。



3 クリック

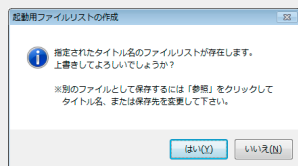
ファイルリストのタイトル名を変更して保存することができます。



起動に必要なファイルを削除すると、USB デバイスから起動ができなくなりますので注意してください。

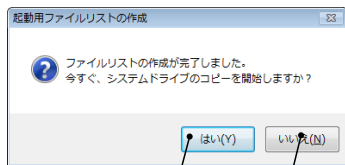
Point

同名の BFL ファイルが存在する場合は、上書きをするかどうかを選択します。タイトル名を変更するには「いいえ」をクリックし、起動用ファイルリストの作成画面で「タイトル名の変更」を行ってください。



4 ファイルリスト作成の完了

以上でファイルリストの作成は完了となります。続けて、このファイルリストを元にシステムドライブのコピーを行うことができます。



作成したファイルリストを元に、すぐにシステムドライブのコピーが始まります。2-9 ページ、2 以降を参照してください。

システムドライブのコピーは行わず、終了します。



起動用ファイルリスト作成ツールについて

「起動用ファイルリスト作成ツール」は、Windows が起動してから使用された（読み込まれた）ファイルのログを取り、リストを作成するツールです。

起動用 USB デバイスで起動したときに使用したいアプリケーションがある場合は、ファイルリストの作成前にそのアプリケーションを起動することでファイルリストに追加できます。ただし、「起動用ファイルリスト作成ツール」で取得できるのは使用された（読み込まれた）ファイルのみになり、アプリケーションを起動しただけでは使用されない DLL ファイルなどは含まれません。そのため、使用するアプリケーションによっては、「起動用ファイルリスト作成ツール」で作成したファイルリストでは動作しないことがありますので、ファイルリスト作成後に再編集を行い、必要なファイルを追加してください。

USB デバイスのアップデート

「BOOT 革命 /USB Ver.1 ~ Ver.2」でシステムドライブをコピーした USB ハードディスクを、「BOOT 革命 /USB Ver.5」の起動コードで起動可能にします。

また、Ver.2 以降でコピーした USB ハードディスクの「名前」と「パスワード」を変更することもできます。

1

ツールの選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「USB デバイスのアップデート」を選択します。



①クリック

②クリック



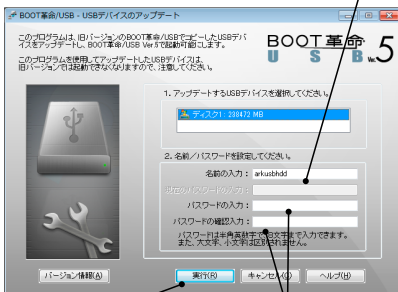
- USB デバイスのリストには、接続されているすべてのハードディスクが表示されます。安全のため、アップデートを行うデバイス以外は取り外しておいてください。

2

コピー設定の確認

USB デバイスから起動するためのパスワードと暗号化の設定を行います。

セレクト画面に表示する名前を設定します。半角英数で 16 文字まで。



①クリック

USB デバイスから起動するためのパスワードを設定します（空でも可）。半角英数で 8 文字まで。

Point

アップデートツールでは、USB デバイスを起動するためのパスワードの変更を行うこともできます。

パスワードを変更する場合、「現在のパスワードの入力」に現在設定しているパスワードを入力し、新しいパスワードを入力します。なお、パスワードが設定されていない場合は「現在のパスワードの入力」欄はグレー表示となり入力できません。

ドライブ情報の取得

コンピューターに接続してあるハードディスクドライブの情報を取得し、表示することができます。

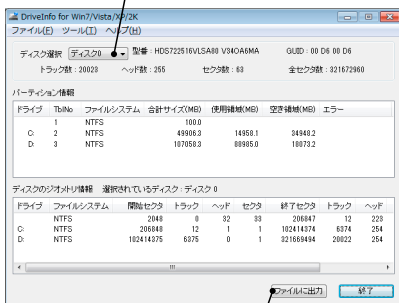
1 「ドライブ情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



2 ドライブ情報の取得

③ 情報を表示させたいディスクを選択



Point

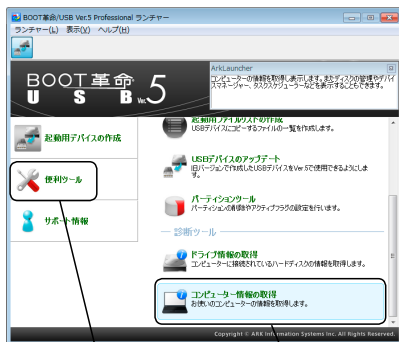
「ツール」メニューを開き、Windows の起動に関わる情報 (GUID、MBR) を操作することができますが、Windows の状態に問題がないときは使用しないでください。

コンピューター情報の取得

コンピューターに関する情報を取得し、表示することができます。

1 「コンピューター情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「コンピューター情報の取得」を選択します。

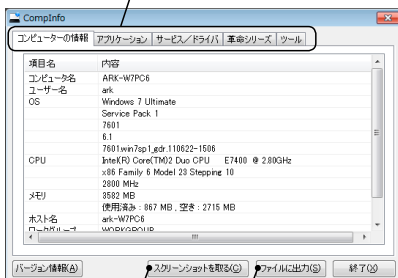


①クリック

②クリック

2 コンピューター情報の取得

④各タブをクリックして、コンピューターの情報やインストールされているアプリケーションなどの情報を表示

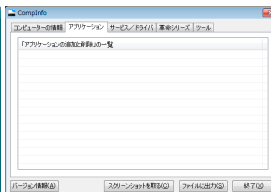


④表示中のウィンドウのスクリーンショットをとるときにクリック

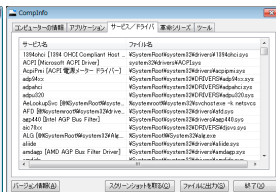
⑤コンピューター情報をテキストファイルとして書き出すときクリック



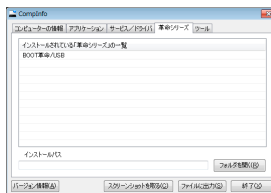
「コンピューターの情報」タブ



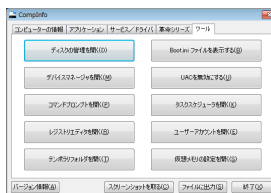
「アプリケーション」タブ



「サービス/ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「ツール」タブ

Point

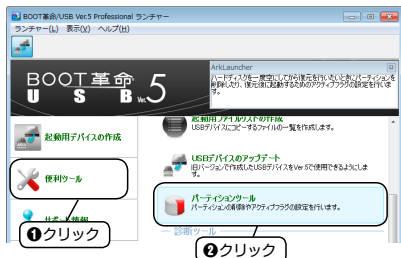
「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかのWindowsの機能呼び出すことができます。

パーティションの削除とアクティブパーティションの設定

パーティションツールでは、パーティションの削除およびアクティブなパーティションの設定変更を行うことができます。

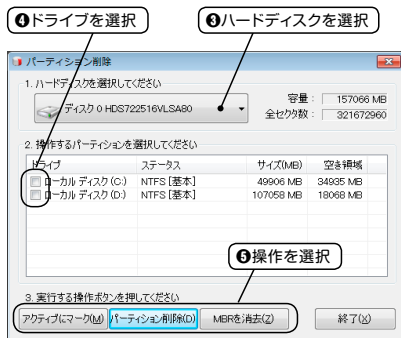
1 パーティションツールを選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「パーティションツール」を選択します。



2 パーティションを選択

削除またはアクティブにするパーティションを選択し、実行する操作ボタンをクリックします。



⚠️
ドライブ文字がついていないドライブは表示されません。
.....

3 操作の確認

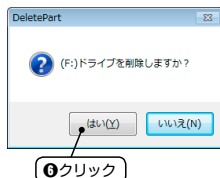
実行前に確認メッセージが表示されます。間違いがないことを確認して「はい」をクリックします。

処理中は別ウィンドウが開きますが、処理が完了するまで数十秒から数分かかることがありますので、しばらくお待ちください。

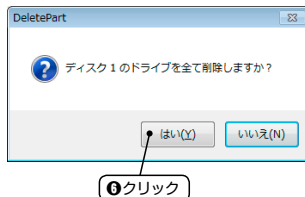
●アクティブパーティションを変更する場合



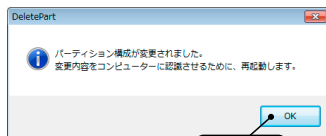
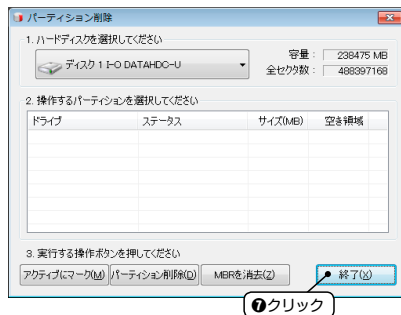
●アクティブパーティションを削除する場合



●MBR を消去する場合



パーティション操作後はコンピューターを再起動します。



- MBRの消去を行うと、ディスクに存在するドライブをすべて削除することになります。パーティションの削除と同様、MBRを消去すると元に戻すことはできません。
- 環境によっては、リカバリーデータが保存されているパーティションなども消去されてしまいますので、このようなパーティションを含めてディスク全体を消去する場合以外は実行しないようにしてください。



パーティションについて

- パーティションには3つの種類があり、それぞれ以下のような特長があります。
- ①基本パーティション…コンピューターを起動するためのパーティションです。OSがインストールされた基本パーティションが、通常Cドライブとなります。「プライマリパーティション」「基本領域」ともいいます。
 - ②拡張パーティション…基本パーティションと対になる領域ですが、拡張パーティションだけではドライブとして使用できません。拡張パーティションの中に論理ドライブを作成することによって使用できるようになります。「拡張領域」ともいいます。
 - ③論理ドライブ…拡張パーティションの中に作成するパーティションです。「論理パーティション」ともいいます。



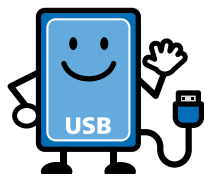
アクティブパーティションについて

「アクティブパーティション」とは、OSを起動するように指定されているパーティションのことです。通常はOSがインストールされているパーティションがアクティブパーティションとなっています。Windows 7では、先頭にある「システムで予約済み」領域が起動パーティションとなっていますので、ここがアクティブパーティションとなります。

なお、パーティションの1つをアクティブに設定することを「アクティブフラグを立てる」ともいいます。

第 5 章

参考資料



ここには、BOOT 革命 /USB をお使いいただく上で、参考にしていただくための資料がまとめられています。

ディスクの先頭に「未割り当て」領域を作成してコピー

システムドライブのコピー、または USB デバイスから起動して内蔵ハードディスクに復元（コピー）を行う場合、コピー実行前に、コピー先のデバイスがすべて消去されます。

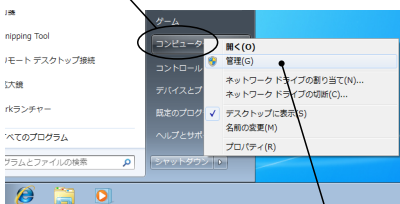
しかし、ディスクの先頭に、システムドライブをコピーできる十分なサイズの「未割り当て」領域があるとコピー先デバイスは消去されず、「未割り当て」領域にコピーされます。

ここでは、コピー先デバイスが消去されないよう、先に「未割り当て」領域を作成しておき、その後でコピー（復元）を実行する手順を説明します。

1 「ディスクの管理」でパーティションを確認

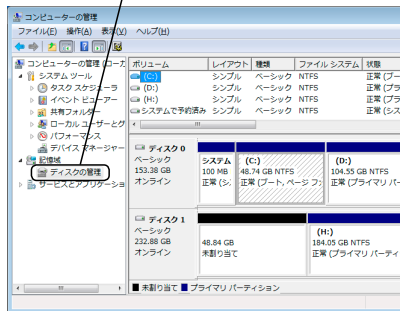
Windows の「ディスクの管理」を起動します。

①「スタート」をクリックし、「コンピューター」を右クリック



②「管理」をクリック

③「ディスクの管理」をクリック



2 パーティション（ボリューム）の選択

削除するパーティション（「未割り当て」領域）を作成するパーティション）を選択します。

●システムドライブのコピー例

（内蔵ハードディスク⇒USB デバイス）

下は、内蔵ハードディスクから Windows を起動したときの「ディスクの管理」画面の例です。

内蔵ハードディスクである「ディスク 0」の C ドライブを、USB デバイス「ディスク 1」にコピーすることになります。

この構成の場合、「ディスク 1」の先頭を未割り当て領域にするために、F ドライブを削除します。

内蔵ハードディスク（C ドライブから起動中）

ディスク 0	システム予約済み	Windows 7 (C:)	(D:)
152.67 GB オンライン	100 MB NTFS 正常 (システム、ブート、ページファイル、クラッシュ ダンプ、	48.83 GB NTFS 正常 (システム、ブート、ページファイル、クラッシュ ダンプ、	103.74 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
ディスク 1	(F:)	(G:)	(H:)
811.51 GB オンライン	48.92 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	882.38 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)	104.55 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)

USB デバイス

④パーティションを右クリック

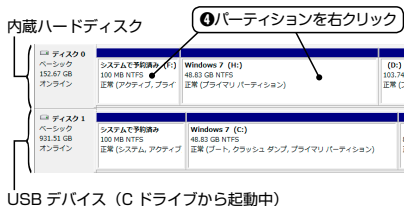
●システムドライブの復元（コピー）例

（USB デバイス⇒内蔵ハードディスク）

次ページは USB デバイスから Windows を起動したときの「ディスクの管理」画面例です。

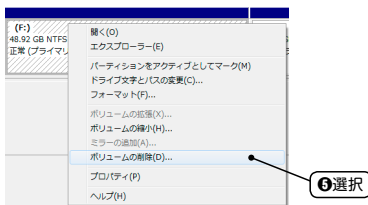
内蔵ハードディスクに復元（コピー）を行う場合、USB デバイスである「ディスク 1」の C ドライブを、内蔵ハードディスク「ディスク 0」にコピーします。

この構成では「ディスク 0」の先頭を未割り当て領域にするため、通常は F ドライブを削除します。しかしこの例では F ドライブはサイズが 100MB と小さいため、システムドライブをコピーすることができません。そこで、コピー実行時にドライブが消去されないようにするためには、その後ろにある H ドライブも削除してサイズを確保する必要があります。



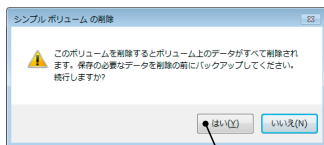
3 「ボリュームの削除」を選択

表示されたメニューの中から「ボリュームの削除」を選択します。



4 削除の確認

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



- パーティション（ボリューム）を削除すると、元に戻すことはできません。必要なデータが残っていないか確認してから削除を実行するようにしてください。

5 削除の完了

削除が完了すると、削除したパーティション（ボリューム）は「未割り当て」と表示されます。

●システムドライブのコピー例 (内蔵ハードディスク⇒USB デバイス)



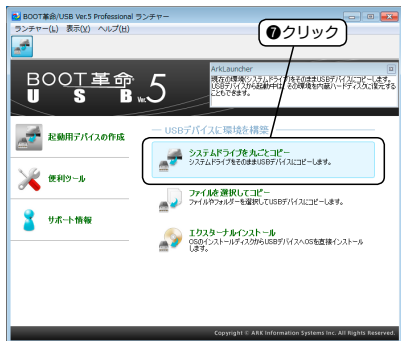
●システムドライブの復元（コピー）例 (USB デバイス⇒内蔵ハードディスク)



- メーカー製のコンピューターでは、上記の「システムで予約済み」に相当する領域に、リカバリーデータが保存されている場合があります。この領域を消去してしまうとリカバリーができなくなる可能性がありますので、事前にハードウェアメーカーにお問い合わせいただき、領域を削除してよいかを確認してから操作を行うようにしてください。

6 BOOT 革命 /USB の起動

続けてシステムドライブのコピー（または復元）を行うため、Ark ランチャーで「起動用デバイスの作成」→「システムドライブを丸ごとコピー」を選択します。



7 コピー先デバイスを選択

コピー先 USB デバイス（復元時は内蔵ハードディスク）を選択します。

3 コピー先デバイスを選択



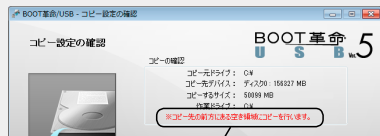
以降の操作は、システムドライブのコピーを行う場合は 2-3 ～ 2-14 ページを、内蔵ハードディスクに復元（コピー）を行う場合は、3-9 ～ 3-10 ページを参照してください。

Point

コピー先ハードディスクの前方の「未割り当て」領域にコピーする場合は、「コピー設定の確認」画面中の文章が変わり、「コピー先の前方にある空き領域にコピーを行います。」と表示されます（下の画面）。

「未割り当て」領域がない場合、または「未割り当て」領域のサイズが小さい場合、「コピー先のドライブは全て消去されます。」（3-9 ページ 3 の画面）と表示され、実行すると全体が消去されます。

ドライブを消去したくない場合は下の表示があるかどうか確認し、表示が異なる場合は処理をキャンセルして、十分なサイズの「未割り当て」領域がディスクの先頭に作成されているか確認してください。



赤字で表示される内容を確認してください。



「ディスクの管理」で削除できないパーティション

メーカー製の PC の場合、機種によっては「ディスクの管理」で削除できないパーティション（ボリューム）が存在することがあります。このようなパーティション（ボリューム）に対しては、BOOT 革命 /USB の「パーティションツール」で削除できる場合があります。「パーティションツール」については 4-8 ページを参照してください。

USB デバイスから起動した Windows 7 にサービスパックを適用

BOOT 革命 /USB では、USB デバイスから Windows を起動するために、USB に関する設定を保護（監視）しています。しかし Windows 7 の場合、サービスパック（Windows アップデート）プログラムは適用時に USB の設定を強制的に更新しようとしています。そのため保護（監視）したままではアップデート時に途中でエラーとなり、サービスパック（Windows アップデート）が適用できません。

BOOT 革命 /USB の保護設定ツールを使用して一時的に保護を解除し、サービスパック（Windows アップデート）を適用できるようにします。

1 USB デバイスから Windows 7 を起動

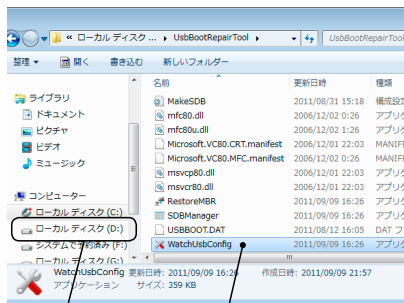
USB デバイスから Windows を起動します（3-2 ～ 3-3 ページ参照）。



- Windows 7 を起動する USB デバイス以外は接続を外しておいてください。

2 保護設定ツールの実行

USB デバイスのシステムドライブに該当するドライブ（通常は C ドライブ）の中に、「Usb BootRepairTool」フォルダーが作成されています。このフォルダーの中にある「WatchUsb Config.exe」を実行します。

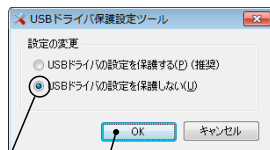


通常は C ドライブ

①「WatchUsbConfig.exe」を実行

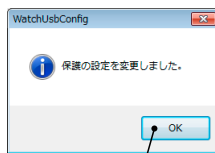
3 設定の変更（保護の解除）

サービスパック（Windows アップデート）を適用するには、「USB ドライバの設定を保護しない」を選択します。



②選択

③クリック



④クリック



- 設定を変更して保護を解除した場合、USB デバイスから Windows 7 を起動している間に別の USB デバイスを接続すると、次回から USB デバイスの Windows 7 が起動できなくなってしまう。サービスパック（Windows 7 アップデート）を適用するまでは、別の USB デバイスを接続しないでください

4 サービスパック (Windows アップデート) を適用

サービスパック (Windows アップデート) を適用します。

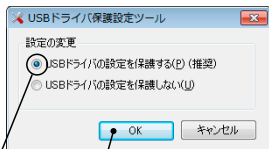
Windows Update



更新プログラムの最終確認日時: 昨日: 20:33
更新プログラムのインストール日時: 今日: 3:00 更新履歴を表示します
取得する更新プログラム: Windows の更新プログラムのみ

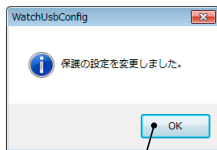
5 設定の変更 (保護の開始)

設定を保護された状態に戻すために **2** と同じ操作で「WatchUsbConfig.exe」を実行し、保護する設定に戻します。



⑥選択

⑥クリック



⑦クリック

以上で操作は終了です。以降は通常どおり USB デバイスから Windows 7 を起動できます。



USB デバイスからの起動と環境修復ツール

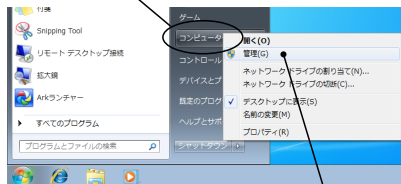
サービスパック (Windows アップデート) の適用中に Windows が再起動する際、USB デバイスから Windows が起動できなくなることがあります。この場合は、「環境修復ツール」(3-7 ページ) を実行することで起動できるようになります。

ディスクの初期化とパーティションの作成 (Windows 7/Vista)

1 ディスクの初期化

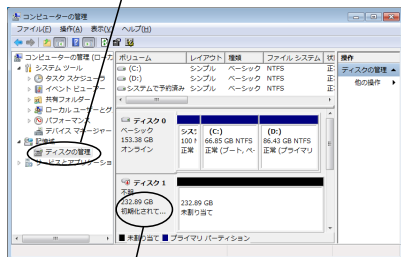
初期化したいハードディスクを接続し、Windows 7/Vista を起動します。

①「スタート」をクリックし、「コンピューター」を右クリック



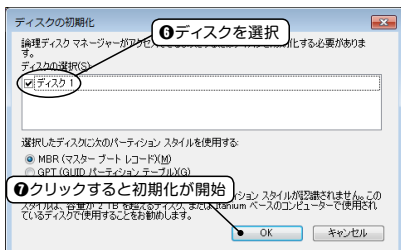
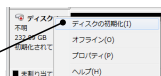
②「管理」をクリック

③「ディスクの管理」をクリック



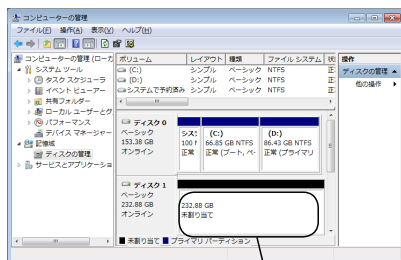
④「初期化されていません」の表示部を右クリック

⑤表示されたメニューで「ディスクの初期化」をクリック



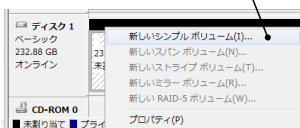
2 パーティションの作成

初期化に続いて、「ディスクの管理」からパーティションを作成することができます。

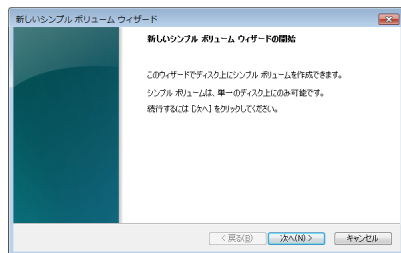


①「未割り当て」を右クリック

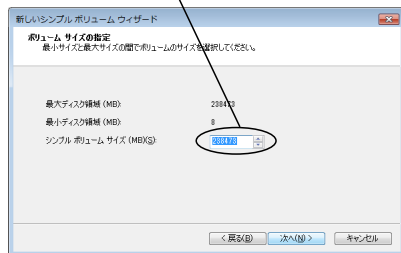
②「新しいシンプルボリューム」をクリック



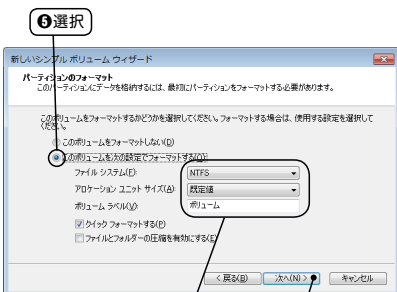
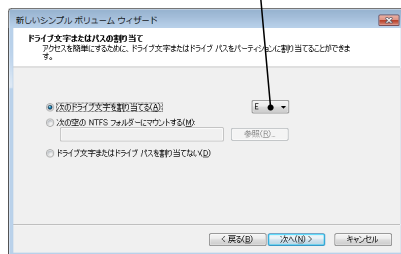
「新しいシンプル ボリューム ウィザード」が起動します。



③サイズを必要に応じて指定

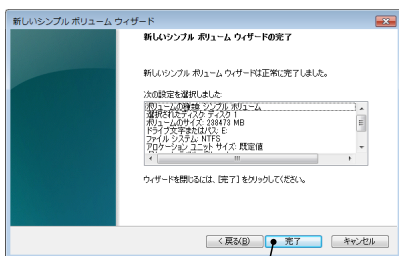


④ドライブ文字を選択

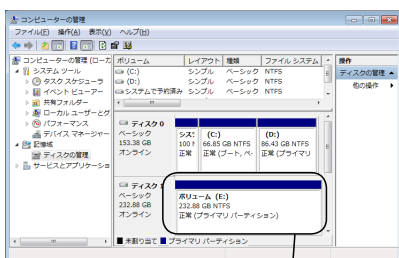


⑤通常は「NTFS」「既定値」のままにして、ボリュームラベルを入力

①クリックするとパーティション作成開始



①クリックするとパーティション作成終了



作成されたパーティション



- 「フォーマット中」と表示されている間は、パーティション操作はせずに、終了するまでお待ちください。

Point

サイズが 32GB 以上のときはファイルシステム「FAT32」は選択できません。
「クイックフォーマットする」にチェックを入れると、フォーマット時間を短縮できます。

ディスクの初期化とパーティションの作成 (Windows XP)

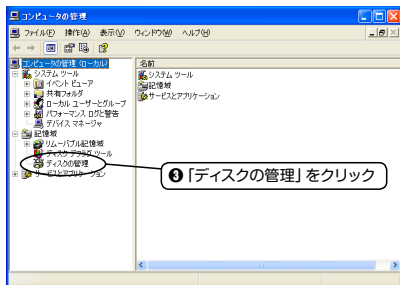
1 ディスクの初期化

初期化したいハードディスクを接続し、Windows XP を起動します。

①「スタート」をクリックし、「マイ コンピューター」を右クリック

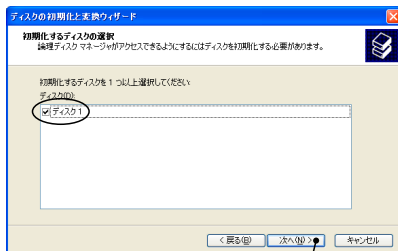
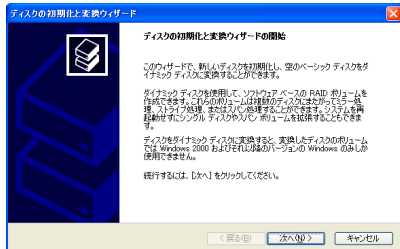


②「管理」をクリック

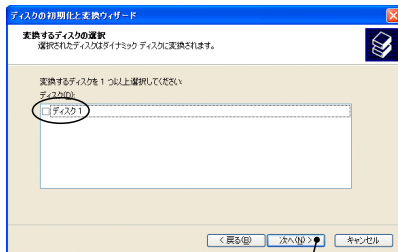


③「ディスクの管理」をクリック

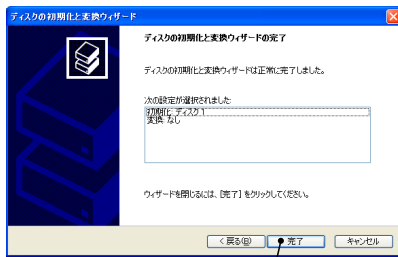
ハードディスクが初期化されていない場合、「ディスクの管理」を表示すると、次の「ディスクの初期化と変換ウィザード」が開始します。



④ディスクを選択 (確認) して「次へ」をクリック



⑤ディスクを選択せずに「次へ」をクリック (ダイナミックディスクに変換しない)

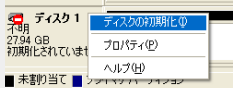


⑥「完了」をクリックして初期化を終了

Point

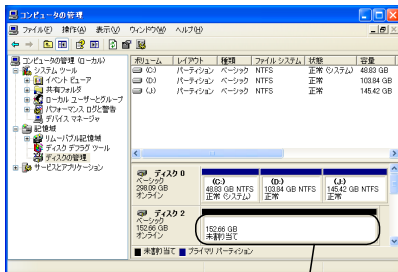
「ディスクの初期化と変換」ウィザードが表示されないとき、「初期化されていません」と表示されている部分を右クリックします。

表示されたメニューで「ディスクの初期化」を選択するとウィザードが開始します。

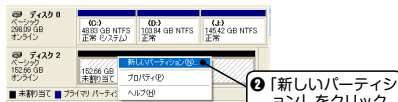


2 パーティションの作成

初期化に続いて、「ディスクの管理」からパーティションを作成することができます。

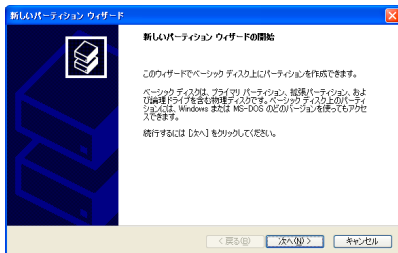


①「未割り当て」を右クリック

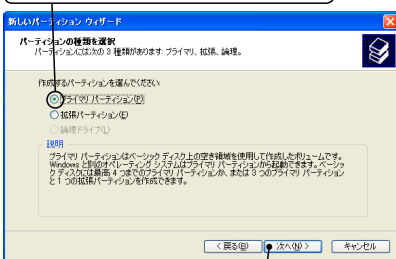


②「新しいパーティション」をクリック

「新しいパーティション ウィザード」が起動します。

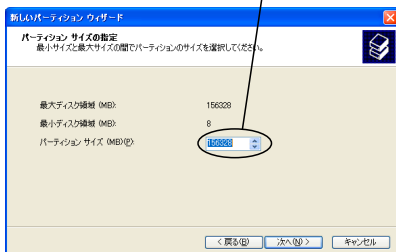


③通常は「プライマリパーティション」を選択

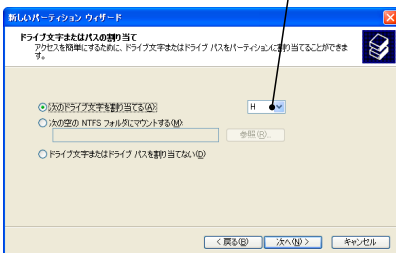


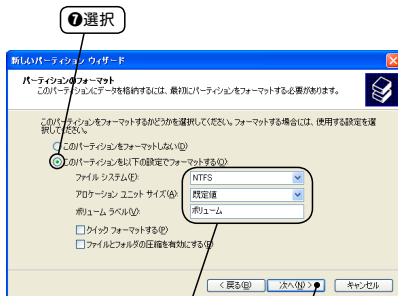
④クリック

⑤必要に応じてサイズ指定



⑥ドライブ文字を選択





① 通常は「NTFS」「既定値」のままにして、ボリュームラベルを入力

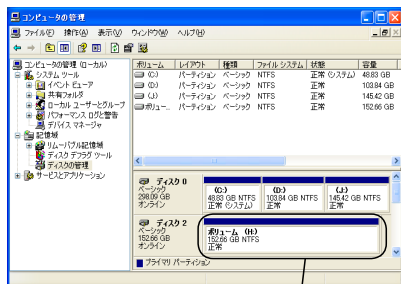
① 「次へ」をクリックするとパーティション作成開始

Point

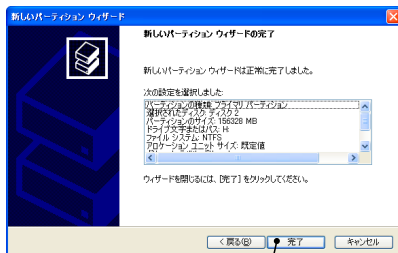
サイズが 32GB 以上のときはファイルシステム「FAT32」は選択できません。
「クイックフォーマットする」にチェックを入れると、フォーマット時間を短縮できます。



「フォーマット中」と表示されている間は、パーティション操作はせずに、終了するまでお待ちください。



作成されたパーティション



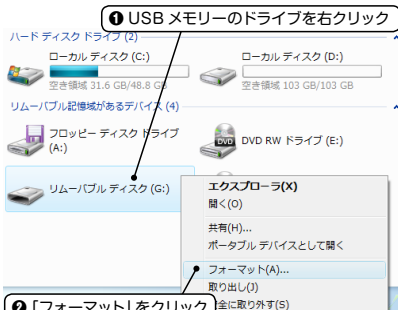
① 「完了」をクリックしてパーティション作成終了

USB メモリーのフォーマット

BOOT 革命 / USB で使用した USB メモリーを別の用途で使用する場合は、使用前にフォーマットを行ってください。

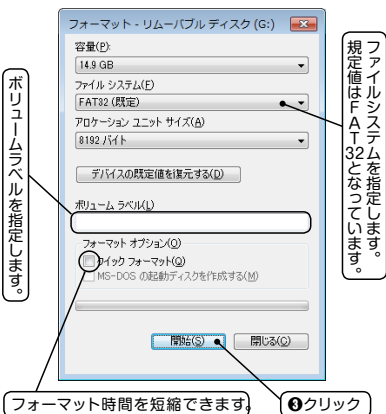
1 USB メモリーの選択

コンピュータ (マイ コンピュータ) で USB メモリーのドライブを右クリックします。



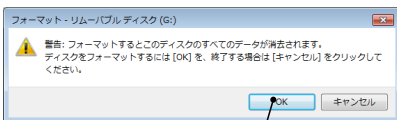
2 オプションの選択

オプションを指定して「開始」をクリックします。

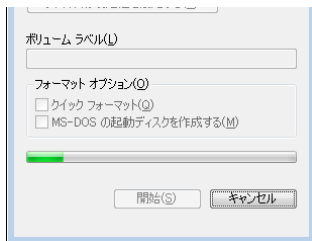


3 USB メモリーのフォーマット

フォーマット開始前に確認メッセージが表示されます。

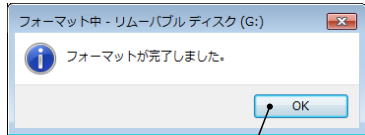


フォーマット中は進行状況が表示されます。



フォーマットが完了するまで USB メモリーを取り外さないようにしてください。

「OK」をクリックして、フォーマットが完了です。



付 録



主に、ユーザーサポートに関連する情報を掲載しています。

用語の解説

ATAPI

IDE に CD/DVD など、ハードディスク以外の機器を接続するための規格。これにより、ハードディスクと同じように接続することが可能となっている。CD/DVD ドライブは、ATAPI 接続と呼ばれることが多い。

BIOS (Basic Input Output System)

バイオスと読み、コンピュータの電源を入れると一番最初に読み込まれるデバイスをコントロールするプログラム。OS は BIOS に命令を出しハードディスクなどのデバイスを制御する。

exFAT (Extended File Allocation Table)

主に USB メモリーなどのフラッシュメモリー向けのファイルシステムで、FAT32 の短所を補った拡張ファイルシステムとなっている。理論上の最大ボリュームサイズは 64ZB (ゼタバイト)。

FAT (File Allocation Table)

MS-DOS、Windows で使用されるファイルシステム。ファイルの保存情報が記録されている。FAT16 は最大 2GB までしか扱うことができない。FAT32 は最大 2TB (テラバイト) まで扱うことができるが、Windows では 32GB までしか作成できない。

GPT ディスク

ディスクの管理方式の 1 つで、「GUID パーティションテーブル」の頭文字をとって「GPT」と呼ぶ。最大 18EB (エクサバイト) までボリュームを作成でき、1 台のディスクに最大 128 個のパーティションを作成できる。従来のディスクは MBR (マスターブートレコード) ディスクと呼ぶ。

GUID

ディスクやパーティションを区別するために用いられる一意な識別子のこと。

HPA (Hidden Protected Area)

PARTIES と呼ばれる BIOS (ファームウェア) で保護された領域で、Windows のディスクの管理でも

この領域を参照することができない。IBM 製のコンピュータはこの領域にリカバリー用のデータが保存されている。

IDE

ハードディスクや CD/DVD を接続するための規格の一つ。1 本の IDE ケーブルで、マスター、スレーブとして 2 台の機器を接続することができる。拡張規格として ATA がある。

IEEE1394

高速なデータ転送が可能なシリアルインターフェース規格。PC だけでなく、デジタル機器に広く普及している。「FireWire」や「i.LINK」とも呼ばれる。

MS-DOS (Microsoft Disk Operating System)

Microsoft 社が開発したディスクオペレーティングシステム。DOS と省略されることがある。

NTFS (New Technology File System)

Windows NT から導入されたファイルシステム。セキュリティや信頼性において、FAT よりも優れている。

OS (Operating System)

コンピュータを動かすための基本ソフトウェア。ハードウェアの管理を行ったり動作させるためのインターフェースを提供する。

PC/AT 互換機

IBM 社が開発した PC を元に、他社が開発した同等の PC のこと。AT 互換機、PC 互換機、DOS/V 機と呼ばれることもある。現在広く普及している PC のうち、Macintosh 以外のほとんどは、PC/AT 互換機。

S.M.A.R.T.

Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology の略で、ハードディスクの障害の発見や故障の発生を予測するために、ハードディスクに搭載されている自己診断機能のこと。

S.M.A.R.T. の機能によって取得できる各属性値 (読

み込みエラーの発生率、スループットの値、温度などと、あらかじめそのハードディスクで設定されている「しきい値」とを比較することで、故障の発生を予測したり、劣化の状態を知ることができる。現在製造されているハードディスクのほとんどに搭載されているが、古いハードディスクなど、S.M.A.R.T.の機能が搭載されていないものもある。

SSD (Solid State Drive)

記憶媒体としてフラッシュメモリを用いたドライブ。省電力、耐衝撃性の面からノート型コンピュータに適している。SLC(Single Level Cell)と、MLC(Multi Level Cell)の2種類がある。MLCはSLCに比べ低価格であるが、速度や信頼性の面でSLCに劣っている。書き換え可能回数は、SLCは10万回、MLCは1万回程度とされている。

USB (Universal Serial Bus)

キーボード、マウス、ハードディスクなどのさまざまな周辺機器を接続することができるインターフェースで、コンピュータの電源を入れたまま、機器の接続、取り外しが可能。

USB1.1、2.0、3.0の規格がある。上位の規格は下位との互換性をもち、最大転送速度がより高速になっている。

USB ルートハブ

USB コントローラーチップ内部には一種のハブが存在し、USBの根本にあたるハブのためUSBルートハブと呼ばれる。デバイスマネージャでUSBコントローラを見ると、いくつかのUSBルートハブが表示されていることが確認できる。

一般的に、コンピューター本体にあるUSBコネクタ(USBポートともいう)は通常ルートハブである。しかし、最近のコンピューターではUSBコネクタが複数あり、その中のいくつかのコネクタは、USBルートハブから分岐したコネクタ(内蔵ハブによるコネクタ)の場合がある。キーボードやモニタにあるUSBコネクタも、内蔵ハブにより増設されたコネクタであることが多い。

Windows PE (Windows Preinstallation Environment)

通常のWindowsから機能を省き、最小限のサービ

スを利用できるコンパクトなオペレーティングシステム。CD/DVDなどから起動でき、Windowsのインストールや、起動できなくなったWindowsのトラブルシューティングや回復に利用される。Microsoftより無償ダウンロード配布されており、これをベースに自由にカスタマイズして使用することができる。

空き領域

パーティション中の使用されていない(ファイル・フォルダーが存在しない)部分のこと。

アクティブパーティション

OSを起動するように指定されているパーティション。

拡張子

ファイルの種類を区別するために、ファイル名の後に「.」を挟んでつけられる文字列のこと(例:.ISO .TXT)。

拡張領域と論理ドライブ

ハードディスクを分割したときの、基本ドライブ以外の領域を拡張領域という。この拡張区画の中に1個または複数の論理ドライブがつくられ、論理ドライブの1つ1つにD、E、F...とドライブ文字が割り当てられて使われることになる。

拡張領域のことを拡張パーティションと呼ぶこともある。

仮想ドライブ

実際には接続されていないが、Windows上で本物のドライブと同じように認識されるドライブのこと。

起動コード (ブートコード)

コンピューターやシステムを起動するために最初に読み込まれるプログラムのこと。

基本ドライブ

コンピューターの起動用ドライブで、1つのハードディスクに4つまで作成することができる。特殊な場合を除きCドライブを指す。このドライブにWindowsがインストールされる。

基本パーティション、またはプライマリパーティションと呼ぶことがある。

クラスタ

ハードディスクへのデータの記録はセクター単位で行われるが、Windows では複数のセクターからなるクラスタという単位でデータが管理され、データの読み書きがクラスタ単位で行われる。

コンベンショナルメモリー

MS-DOS およびアプリケーションが使用可能な640KB のメモリー。

シリアル ATA (SATA、SerialATA)

シリアルで転送するインターフェース規格。従来のATA 規格はパラレル転送を行っており、ケーブルの形状が異なる。ATA より高速な転送を可能としている。

ジオメトリ

ハードディスクに関する情報（トラック数、セクター数、ヘッド数など）のこと。

使用領域

パーティションの中の、使用されている（ファイル・フォルダーが存在する）部分のこと。

ダイナミックディスク

Windows 2000 以降で利用可能なディスク管理方法。ダイナミックディスクでは、「ボリューム」と呼ばれる単位でディスクの領域を管理する。ボリュームには、シンプル、スパン、ストライプ、ミラー、RAID-5 が存在するが、ミラーと RAID-5 はサーバー系 Windows のみサポートしている。

ディレクトリ

階層構造のファイル管理方式では、1 つの階層をディレクトリと呼ぶ。

デバイス

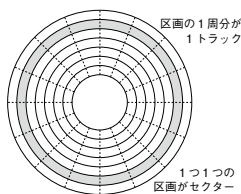
コンピュータに接続する周辺機器のこと。

同期

データを二重化し、常に同一性が保持される機能のこと。

トラックとセクター

ハードディスクの中では、回転する磁気を帯びた円盤に対してデータの書き込み・読み出しが行われている。データが記録される区画の最小単位をセクターといい、セクターの1 周分をトラックという。



パーティション

ハードディスクをいくつかの領域に分割したときの区域のこと。物理的に1 つのディスクを複数のディスクのように見せることができる。

パーティションテーブル

ハードディスクに存在する各パーティションに関する開始位置やサイズの情報を記録しておくテーブル。

ファイルシステム

ファイルを管理する方式。ハードディスク上のどこにファイルが保存されているかなどの情報を記録する。ファイルの参照は、ファイルシステムの情報をもとに行われている。

フォーマット

ハードディスクや DVD-RAM、MO などの記録メディアにデータを書き込むために一番最初に行う処理。ファイルシステムごとに決められた規則に従って行われる。

フラッシュメモリー

書き換え可能なメモリーのこと。電源を切ってもデータを保持することができる。USB メモリーや SSD、SDHC メディアカードもフラッシュメモリーを使用した記憶装置である。

ベーシックディスク

基本パーティション、拡張パーティション、論理ドライブで構成される従来のディスク管理方法を「ベーシ

ックディスク」と呼ぶ。

ヘッド

データの読み込み・書き込みを行うために使われるディスクの中にある磁気ヘッドのこと。ハードディスクでは、複数のヘッドが存在する。

ヘッド数

ハードディスクのサイズや位置情報を計算する方法としてヘッド数という値を使用する。ヘッド数は、ほとんどのコンピューターでは 255 としているが、IBM などの一部のコンピューターでは 240 となっている。

ボリューム

ディスクの記憶単位で、ドライブ文字が割り当てられる。ダイナミックディスクでは、パーティションを「ボリューム」と呼ぶ。

ボリュームラベル

マイ コンピュータ画面でドライブアイコンに表示される、ディスクを識別するための名前。

マスターブートレコード

HDD の先頭領域にあるセクターのことで、MBR と略されることがある。パーティションテーブルやアクティブパーティションから起動用プログラムを読み込むためのマスターブートコードが記録されている。

マルチブート

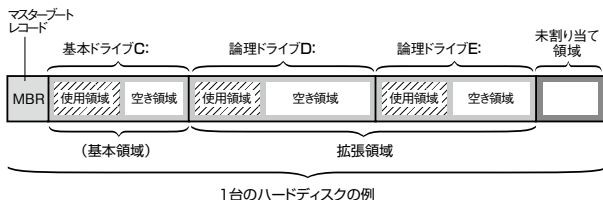
ハードディスクに複数のオペレーティングシステム (OS) をインストールして、切り替えて起動できるようにすること。

未割り当て領域

ハードディスクの中でパーティションが割り当てられていない部分のこと。空き領域ともいう。

レジストリ

ハードウェアやアプリケーションの設定情報を管理するファイル。このファイルが破損すると OS が起動しなくなることもある。



(株)アーク情報システム お客様情報保護方針

株式会社アーク情報システム（以下、弊社という）は個人情報保護に細心の注意を払っております。お客様にご登録いただいた個人情報（以下、お客様情報という）に対し、弊社情報セキュリティ方針に従い、適切な保護を行います。

以下にお客様情報の保護方針を記載いたします。

1. お客様情報および使用目的について

弊社製品購入時のユーザー登録、セミナー参加申込み、お問合せフォーム等でお名前、ご住所、電話番号、電子メールアドレス、パスワード、弊社製品シリアル No. 等のお客様情報をお預かりする場合があります。

お預かりしたお客様情報は下記の場合に使用いたします。

- ・ご購入いただいた弊社製品のサポートをご利用いただく場合
- ・弊社から製品等をご購入いただく場合
- ・弊社が企画・参加するセミナー・イベントのご案内をする場合
- ・各種お申込みのお礼、またお申込みをいただいた資料等を送付する場合
- ・弊社製品のアップデート、およびそれらの情報をご提供する場合
- ・弊社新製品の情報、およびサービス等をご案内する場合

2. お客様情報の提供および開示について

原則として、お客様情報を第三者へ提供・開示することはありません。ただし、以下の利用目的でお客様情報を提供させていただく場合があります。

・外部業者への業務委託をする場合

お客様へ製品・サービス・弊社情報等を発送や提供するため、アンケート等を実施するため等で、外部業者等へ業務を委託する場合があります。この場合には、弊社の厳正な管理の下で業務を行うことを目的に、必要最小限のお客様情報を提供する場合が

あります。

・法令等に基づき、お客様情報の開示が必要な場合

法令や条例等で認められた権限を持つ機関からの要請があった場合には、お客様の許可なくお客様情報を提供・開示する場合があります。

・クレジットカード会社、その他金融機関とのお客様情報の共有

クレジットカードによるオンライン決済やその他の決済のためにお客様のお名前等をクレジットカード会社、その他金融機関に照会させていただく場合があります。

3. お客様情報の管理について

お客様情報を厳正に保護し、不正使用、漏えい、棄損、改ざん、不正アクセス等の無いように努めます。

お客様情報の閲覧、変更等は、弊社 Web サイトにてお客様ご自身で行うことが出来る場合があります。お客様情報の取り扱いに関するお問合せ、および変更等がお客様ご自身で行うことの出来ない場合には各製品のお客様相談窓口までご連絡をお願いいたします。お客様ご自身を弊社にてご確認させていただけた場合に限り、合理的範囲内で速やかに対応させていただきます。

4. セキュリティについて

個人情報保護規定を策定し、適切な運用管理に努めております。お預かりしたお客様情報は、ファイヤーウォール等で保護されたサーバーに

て保管し、不正アクセス等による漏えい、改ざんの起こらないように努めます。

弊社 Web サイトにて、お客様情報をお預かりする際やお客様ご自身でお客様情報の閲覧、変更等を行う場合には、SSL (Secure Socket Layer) プロトコルを使用して安全性を高めております。

お客様がご自身の個人情報を管理するために設定された電子メールアドレス、パスワード等に関しては、お客様ご自身で厳重な管理をお願いいたします。

5. Cookie (クッキー) 使用について

弊社 Web サイトでは、Cookie と呼ばれる技術を使用したページがあります。この Cookie 技術の使用により、より利用しやすい Web サイトのご提供を行っております。

ただし、この Cookie により、お客様情報を識別するものではありません。また、Cookie 機能をお客様により無効とされた場合には弊社

Web サイトの全部、または一部がご使用いただけない場合があります。

6. 個人情報保護方針に関する改訂について

弊社では、より良くお客様の個人情報の保護を図るために、また法令その他の規範の変更に伴い、お客様情報保護方針の全部または一部を改訂することがありますので、定期的にご確認されることをお勧めいたします。

7. お客様情報に関するお問合せについて

お客様情報保護方針、およびお客様情報に関するお問合せ窓口は下記で承っております。

- ・ 株式会社アーク情報システム
企画販売部 お客様情報保護方針相談窓口
- ・ E-Mail お客様情報保護方針担当
privacy@ark-info-sys.co.jp
- ・ ホームページ
<http://www1.ark-info-sys.co.jp/>

ユーザーサポートのご利用にあたって

お問い合わせになる前に

①操作方法・トラブル内容について調べる

インターネット接続が可能な場合は、FAQ（よくあるお問い合わせ）をご覧ください。操作上の注意点、トラブル内容と対処方法などが記載されています。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/support/index.html>

②アップデートをダウンロードする

最新アップデートを適用することにより、改善場合があります。下記からダウンロードしてください。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/download/index.html>

③弊社サポートへ問い合わせる

上記によっても解決しないとき、またはインターネット接続ができない場合に弊社ユーザーサポートをご利用ください。

お問い合わせにあたって

■ メールフォーム：https://www2.ark-info-sys.co.jp/ARK_N/MailSupport/MainGate.asp

■ FAX：03-3234-9252

■ TEL：03-3234-9251（祝祭日・弊社休業日を除く月～金の10～12時、13～17時）

お問い合わせいただく際、メール、FAX、電話のいずれの場合においても以下の項目が必要です。

① ユーザーID

② 製品名、バージョン、シリアルナンバー

③ ご使用の OS (Windows XP など)

④ エラーメッセージ全文

障害の状況により、さらに詳しい情報が必要な場合があります。エラーが発生するまでの手順を、箇条書きでお知らせください。

(例)

1. 「開始」をクリック

2. アプリケーションエラーが発生

エラーメッセージ「*****」（正確に転記してください）

※ FAX の場合、「ユーザーサポート申込書」をコピーしてご記入のうえお送りください。

※ メール・FAX の場合、お問い合わせの内容により3～5営業日ほどお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

※ 曜日や時間帯によってはお問い合わせが集中し、お電話がつながりにくくなる場合がございます。その際は、恐れ入りますが時間をずらしてお電話をいただきますようお願いいたします。



● 弊社で動作保証している環境以外（自作のコンピュータ、ショップメイトのコンピュータ、CPU オーバークロック、そのほかハードウェアの改造など）で不具合が発生するケースにおいては、パーツの相性や、デバイスドライバがその一因となっていることがあります。その場合、すべてのパーツの組み合わせの相性テストは不可能であり、弊社ユーザーサポート環境にて再現性のない場合や、相性により発生していると思われる問題につきましては対応が不可能な場合もあります。ご了承ください。他社製品、シェアウェアなどのパーティション操作ソフトウェア（マルチブートユーティリティなど）との共存は原則としてサポート外とさせていただきます。

この用紙をコピーして各項目にご記入の上、下記まで FAX にてお送りください。

必ずユーザー登録終了後にユーザーサポートをお申し込みください。

FAX 03-3234-9252

株式会社アーク情報システム 企画販売部 ユーザーサポート係 行

「BOOT革命/USB Ver.5」ユーザーサポート申込書

お使いの環境を、わかる範囲でご記入ください（この用紙でユーザー登録はできません）。

●弊社からお客様への連絡方法（電話、FAX、E-Mail から指定してください。ただし、ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。）

1. 電話（10：00～12：00、13：00～17：00 内となります） 2. FAX 3. E-Mail

●お客様のお名前・ご連絡先・対象の製品（※は必ずお書きください）

*お名前： _____ *TEL： _____

E-Mail アドレス： _____

*シリアルナンバー： _____ ユーザー ID： _____

アップデータの有無：有・無（Ver. _____）

●お使いのコンピューターについて

メーカー名： _____

機種名とシリアルナンバー： _____

メモリー（RAM）容量： _____

Windows の種類：Windows 7 Starter / HomePremium / Professional / Ultimate（SP _____）

Windows Vista Basic / HomePremium / Business / Ultimate（SP _____）

Windows XP Home / Pro（SP _____）

32ビット版 / 64ビット版

接続されている周辺機器： _____

ボード、カードをご利用の場合

・I/F：SCSI、eSATA、RAID、USB2.0、USB3.0、IEEE1394、その他（ _____ ）

・メーカー、型番、チップセット： _____

●お使いのソフトウェアについて

インストールされているアプリケーションプログラム： _____

●障害が生じた操作（□にチェックを入れ、内容を記入してください）

☐インストール時

障害が生じたタイミング： ☐インストール途中 ☐その他

エラーメッセージ：

現象（具体的に）：

☐システムドライブのコピー時

コピー方式： ☐システムドライブを丸ごとコピー

☐ファイルを選択してコピー

コピー先デバイス： ☐USB ハードディスク

☐USB メモリー

「コピー設定の確認」画面に表示されている情報を記載してください。

コピー元ドライブのドライブ文字：

コピー先デバイス：

コピーするサイズ：

作業ドライブ（丸ごとコピーの場合）：

オプション： ☐システムドライブのサイズをコピー先に合わせる

☐NTFS の暗号化

障害が生じたタイミング： ☐起動時 ☐オプションの選択時 ☐ファイル選択時

☐ファイルコピー中 ☐その他

エラーメッセージ：

現象（具体的に）：

☐ **USB デバイスからの起動時**

起動コードの読み込み：☐製品 CD ☐ハードディスク ☐起動コードを使用しない（BIOS で起動）

エラーメッセージ：

現象（具体的に）：

☐ **USB 起動コードの書き込み・復元時**

エラーメッセージ：

現象（具体的に）：

☐エクスターナルインストール時

インストールする OS : _____ (SP _____)

ドライブ名 : _____

合計サイズ : _____

空き容量 : _____

デバイス名 : _____

障害が生じたタイミング : ☐起動時 ☐ディスクの選択時 ☐ファイルコピー中 ☐その他

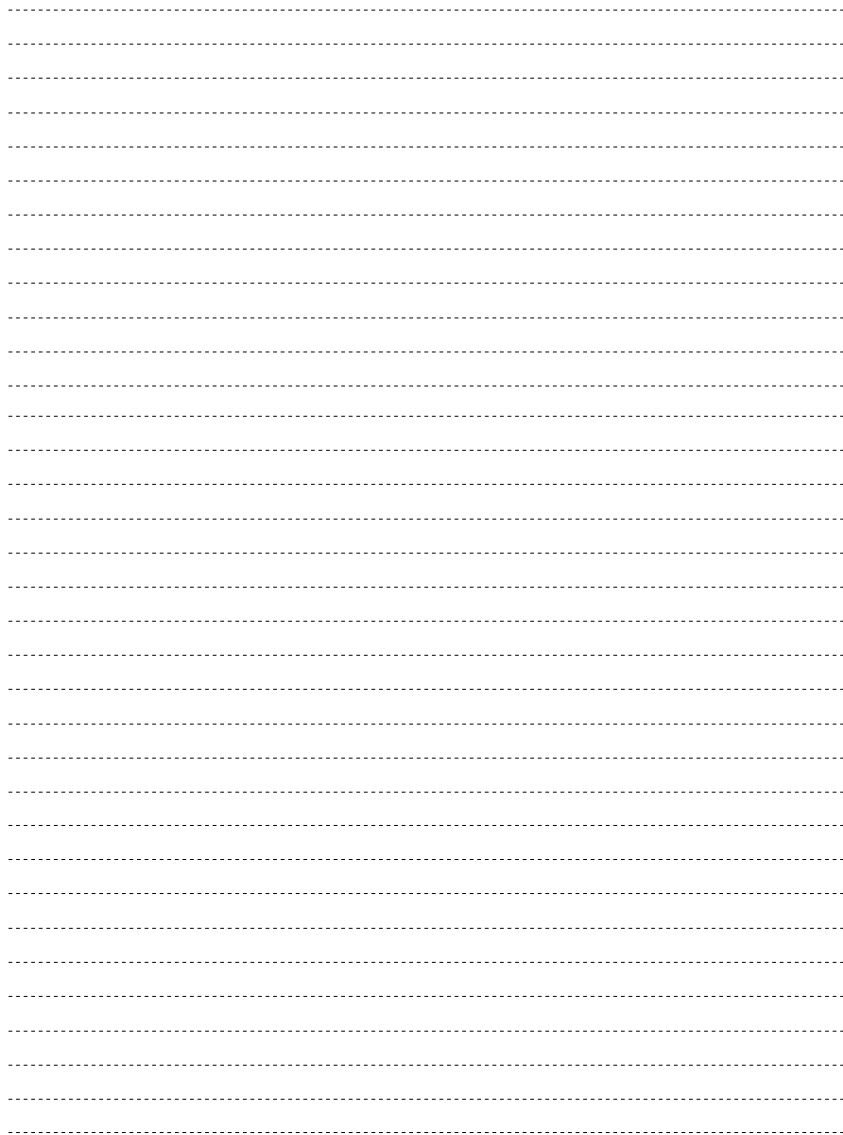
エラーメッセージ : _____

現象（具体的に） : _____

☐その他

エラーメッセージ : _____

現象（具体的に） : _____



- ・本ユーザース・マニュアルはPDF ファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe 社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
- ・Adobe Reader はセットアップ画面からインストールすることができます。
- ・Microsoft[®]、Windows[®]7、Windows[®]Vista、Windows[®]XP、Windows PE は米国 Microsoft Corporation の、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

BOOT 革命 /USB Ver.5 ユーザース・マニュアル

2011 年 10 月 1 日 第 1 版発行

発 行 株式会社アーク情報システム

〒 102-0076 東京都千代田区五番町 4- 2 東プレビル

© 2011 Ark Information Systems Inc.

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。